

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
青野 和彦			

授業のテーマ及び到達目標	本講義では、本学の建学の設立の経緯と精神の学びをはじめ、諸外国の文化や社会生活に多大な影響を与えてきたキリスト教の聖典である旧約・新約聖書の概要（それぞれのメッセージ、時代背景、人々の生活等）を初めてキリスト教にふれる学生に配慮しつつ、体系的かつ分かり易く解説していく。この学びによって、キリスト教主義学校としての本学の精神の枢要と聖書の思想的特色、さらに現代世界が抱える諸課題、例えば、異民族間の「平和と共生」に関する聖書の使信（メッセージ）を理解できるようになる。また、本講義により、課題等の文章作成を通して、キリスト教の基礎知識を習得すると共に、文章リテラシーや教養も養成することができる。		
授業計画	第1回	導入：授業オリエンテーション ここでは、①キリスト教学を学ぶ意義と目的、②講義内容、③評価方法、④受講上の諸注意を説明する。これにより、受講生が講義の全体像を把握し、聖書に関心をもつことができるよう促す。	
	第2回	沖縄キリスト教の建学の精神 ここでは、①沖縄キリスト教史の中で本学院が創設された経緯、②本学院設立の中心人物の一人仲里朝章氏の思想に見られる本学院の建学の精神を解説する。そこから本学院の特色を学ぶ。	
	第3回	旧約聖書とはどのような書物か—概論— ここでは、旧約聖書の学びの導入として、①聖書の開き方と記号の説明、②旧約聖書の構成と内容、③旧約聖書と新約聖書の関係（特に「契約」の意味）、④旧約聖書が生まれた地理的特色、気候を体系的に解説する。そこから、旧約聖書全体の思想的特徴を学ぶ。	
	第4回	旧約聖書の「天地創造物語」①—人間と世界の創造— ここでは、「創世記」1～2章の「天地創造物語」が伝える①神が人間と世界を創造した目的、②「天地創造物語」に示される神と人間、世界のあるべき関係を解説する。そこから、聖書が示す神観・人間観・自然観、さらには現代世界に対する聖書のメッセージを学ぶ。	
	第5回	旧約聖書の「天地創造物語」②—「原罪」— ここでは、「創世記」3章のアダムとエバの「墮落物語」を中心に、創造物語に示される人間の「原罪」(original sin)の意味を解説する。これはキリスト教の中心的概念の一つである。そこから、ユダヤ教、キリスト教の文化圏に生活する人々の思想を学ぶ。	
	第6回	イスラエル民族史①—「族長」達の生涯（アブラハム、イサク、ヤコブを中心に） ここでは、イスラエル民族の族長達とヨセフの生涯を通して、神への信仰に生き、苦悩した姿を学ぶ。そこから、イスラエル民族の精神的基盤である神（ヤハウェ）信仰の特色と意義を学ぶ。	
	第7回	イスラエル民族史②—モーセと「十戒」— ここでは、①エジプトに移住したイスラエル民族を奴隷状態から解放したモーセの生涯、②出エジプトの旅の途上で神から授かったと言われる「十戒」の内容、③その歴史的影響を解説する。そこから、ユダヤ教のみならず、キリスト教信仰の土台である「一神教」思想の特色を学ぶ。	
	第8回	イスラエル民族史③—イスラエル統一王国の盛衰と王達の生涯— ここでは、①イスラエル民族が統一王国を形成した歴史的経緯、②サウル、ダビデ、ソロモン王の生涯、③王国が分裂した原因を説明する。そこから、イスラエル民族の発展とその後にたどる苦難の歴史の原因を学ぶ。	
	第9回	「預言書」を学ぶ ここでは、旧約聖書の三本柱の一つである「預言書」のメッセージを、「三大預言書」と言われる「イザヤ書」、「エレミヤ書」、「エゼキエル書」から解説する。そこから、異教信仰（バアル神信仰）から一神教信仰を防衛した預言者達の闘いの意義を学ぶ。	
	第10回	「文学書」を学ぶ ここでは、「歴史書」、「預言書」と並んで旧約聖書のもう一つの柱である「文学書」のメッセージを「ヨブ記」、「コヘレトの言葉」、「詩編」、「雅歌」から解説する。そこから、主にペルシャ帝国やギリシャ帝国の支配下で信仰的危機にさらされたイスラエル民族がヤハウェ信仰を懸命に守ろうとした姿や彼ら宗教観・人生観を学ぶ。	
	第11回	新約聖書とはどのような書物か—概論— ここでは、新約聖書の学びへの導入として、①イエス・キリストの生涯、②新約聖書が書かれた社会的背景、③旧約聖書との思想的関係、④新約聖書の構成と各文書の内容を解説する。そこから、新約聖書の全体像を体系的に把握する。	
	第12回	新約聖書の「福音書」に描かれるイエス・キリストの活動 ここでは、「福音書」が描くイエス・キリストの活動、特に①社会的弱者との関わりをとおしてイエスの活動理念を解説する。そこから、イエスの思想的特色（神への愛と隣人愛）と共に、現実世界で創出しようとした社会（神の国）の特色を学ぶ。	
	第13回	イエス・キリストの「たとえ話」 ここでは、新約聖書が記すイエス・キリストの「たとえ話」(parable)を通して、イエス・キリストが大切に関わった階層の人々や「隣人愛」の精神について解説する。なお、題材として「ぶどう園の労働者のたとえ」（「マタイによる福音書」）や「善いサマリア人のたとえ」（「ルカによる福音書」）を用いる。そこから、イエス・キリスト教が重要視する思想的特色を学ぶ。	
	第14回	イエス・キリストの「十字架」の意味 ここでは、福音書におけるイエス・キリストの「受難物語」から、イエスの十字架の意味と受難の意味を解説する。そこから「復活」と並んでキリスト教信仰と思想（神学）の中心的教義の核心部分を学ぶ。	

	<p>第15回 イエス・キリストの「復活」の意味</p> <p>ここでは、キリスト教信仰と思想のもう一つを中心であるイエス・キリストの「復活」の意味を、福音書をたどりながら解説する。そこから、聖書の復活思想と共に、キリスト教文化圏の人々が「復活祭」（イースター）を重視する理由や現代の「終末期医療」の思想的背景を学ぶ。</p>
授業の概要	<p>【講義概要】</p> <p>本講義では、①本学の建学理念と設立の経緯、②旧約聖書と新約聖書の時代背景、各文書のメッセージ、③現代社会に対する聖書の関わりを聖書、教科書、配布資料、視聴覚教材を通して学ぶ。特に、旧約・新約聖書の関係を体系的かつ分かり易く解説していく。</p> <p>【展開方法】</p> <p>①担当教員によるテーマの提示、②それに関するテーマ内容の解説（聖書、教科書、配布資料から）、③学生からの質問と要約の順序で講義を進行する。また必要に応じて、テーマに関連する画像や動画等の視聴覚教材も適宜用いる。</p>
予習	毎時間、次回講義で扱うテーマに関連する教科書を指定し、配布資料も配布する。学生はそれを通読し、事前に内容把握に努める。
復習	授業前に定期的に配布する簡潔な「復習プリント」を指定された期日までに作成し、提出する。その内容は、テーマに関連した設問（1問）であり、授業に関する質問があれば、それも記入できる。この作成により、学生は各講義内容をより適確に復習できる。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本聖書協会（編）『聖書』新共同訳 日本聖書協会、1987年。 ・川崎 正明『旧約聖書を読もう』日本キリスト教団出版局、1995年。 ・富田正樹『キリスト教との出会い 新約聖書』、日本キリスト教団出版局、2002年
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・四竈 揚『新約聖書を読もう』日本キリスト教団出版局、1995年。 ・大城 実 『聖書と思想と世界』 沖縄コロニー印刷、2000年。 ・大貫隆、名取四郎、宮本久雄、百瀬文晃編『キリスト教辞典』、岩波書店、2002年。
評価方法・評価基準	<p>【平常点】40%：①「復習プリント」、②課題（「キリスト教講演会」感想文）、③授業参加度</p> <p>※「月曜礼拝」出席も本学の建学の精神、聖書およびキリスト教の幅広い理解の向上の観点から、評価に反映させる。</p> <p>【期末試験（レポート）】60%</p> <p>・期末レポートは講義で扱ったテーマを1つ選択し、作成する。なお、テーマ選択方法や書式の詳細については講義の中で連絡する。</p> <p>【D P 1～3との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回『聖書』（新共同訳版）、上記の教科書を購入の上、必ず持参すること。 ・「月曜礼拝」の出席を奨励する。 ・出席（毎回とる）。欠席・遅刻をしないよう注意。 ・課題の提出および学生として相応しいマナー（私語、飲食、スマホ使用の禁止）を心がけること。 ・講義やキリスト教に関する質問があれば、講義時あるいは「オフィス・アワー」を利用するとよい。
オフィスアワー	毎週木曜日 2限目 研究室（西研2-2）
課題に対するフィードバック方法	提出された「復習プリント」および課題は担当教員が点検した後、講義時に返却する。その際、学んだ内容理解を確実にするため、担当教員が改善点等を説明・フィードバックする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
青野和彦・望月智			

授業のテーマ及び到達目標	キリスト教を理解する上で、聖書と教会史の学びは不可欠である。本講義は西洋キリスト教史（主に歴史的事件と主要な人物の思想）を中心に解説する。また、この学びの中で、日本のキリスト教史やもう一つの世界宗教であるイスラム教の特色とキリスト教との関係も紹介する。この学習を通して、現代の国際社会の諸相と思想的背景を正確に読み解くことができるようになる。さらに、本学院が謳う「建学の精神」理解と平和構築に向けて必要とされる教養も習得できる。
授業計画	<p>第1回 導入：オリエンテーション ここでは、①キリスト教学Ⅱを学ぶ意義と目的、②講義内容、③評価方法、④受講上の諸注意を説明する。これにより、学生に講義の全体像を把握するとともに、学習へのモチベーションを上げることを目指す。</p> <p>第2回 古代キリスト教史①：初代教会 ここでは、①ローマ帝国の迫害下の初代教会の成立過程、②この時期におけるペトロとパウロの活動と思想を解説する。そこから、キリスト教の使徒達の働きと共に、ローマ帝国で迫害されながらも発展していったキリスト教会の歴史的背景と思想的特色を学ぶ。</p> <p>第3回 古代キリスト教史②：キリスト教とローマ帝国 ここでは、①キリスト教会に対するローマ帝国の弾圧の内容、②この時代に発生した「異端」に対するキリスト教会の対応、③古代キリスト教思想を集大成したピッポの司教アウグスティヌスの生涯と思想を解説する。そこから、当時の教会が内的・外的試練を受けながら、発展した歴史的経緯を学ぶ。</p> <p>第4回 古代キリスト教史③：古カトリック教会 ここでは、紀元2世紀後半から4世紀にかけて成立した古カトリック教会の三つの基盤、①教会制度、②信条、③聖書（正典）を中心に解説する。そこから、この時代のキリスト教の思想的功績と共にその後の中世カトリック教会に繋がっていった歴史的な理由を学ぶ。</p> <p>第5回 中世キリスト教史 ここでは、教会史上最も隆盛した中世期のキリスト教の諸相について、①ゲルマン民族の大移動と神聖ローマ帝国成立による「キリスト教世界（Corpus Christianium）の形成、②東西教会の分裂、③十字軍遠征、④ローマ教皇権の隆盛と衰退、⑤大学（universitas）の設立、から解説する。そこから、中世キリスト教史のみならず、カトリック神学を発展させ、継承していった大学の意義、さらにイスラム教世界との関係を学ぶ。</p> <p>第6回 イスラム教の成立 ここでは、①十字軍遠征によりキリスト教世界が関わったイスラム教の成立の経緯、②宗派（シーア派とスンニ派）、③中心的教義、④キリスト教との共通点と相違点を解説する。そこから、両宗教が歴史的に対立した原因と共に、現代世界における両宗教の共生の可能性を模索する。</p> <p>第7回 宗教改革史①：マルティン・ルターによるドイツ宗教改革 ここでは、ルターによる宗教改革を、①ドイツで宗教改革が起こった歴史的要因、②ルターの生涯と思想的特色、③ルターの改革のヨーロッパ・キリスト教史への影響の点から体系的に解説する。そこから、プロテスタント教会の成立の歴史と中心的教義、さらにはカトリック教会との制度的・思想的相違点を学ぶ。</p> <p>第8回 宗教改革史②：ジャン・カルヴァンによるスイス宗教改革史 ここでは、フランスから亡命し、スイスのジュネーブを中心に宗教改革を行なったカルヴァンの生涯と思想を解説する。また、近代資本主義の形成に与えた彼の「職業倫理」についてもふれる。そこから、カルヴァンのヨーロッパにおける思想的影響力と共に米国建国の基盤となったカルヴァン派教会の理念を学ぶ。</p> <p>第9回 カトリックの反宗教改革 ここでは、①カトリック国スペイン（カスティーリャ・レオン王国）における枢機卿シスネロスによるキリスト教刷新運動、②イグナティウス・デ・ロヨラの生涯とイエズス会の創設、③プロテスタント教会の対応とカトリック教会の刷新を決議した「トリエント公会議」の内容と歴史的な影響を解説する。そこから、プロテスタントだけではなくカトリックによる真摯な改革精神を学ぶ。</p> <p>第10回 近世ヨーロッパのキリスト教史（イングランドを中心に） ここでは、主に英国キリスト教史を扱う。つまり、①ヘンリー8世によって英国国教会が成立した経緯、②カトリックと英国国教会との対立、③クロムウェルを中心とした「ピューリタン革命」を解説する。そこから、カトリック、正教会、プロテスタントと並ぶ英国国教会成立の経緯と意義を学ぶ。</p> <p>第11回 中南米キリスト教史：16世紀を中心に ここでは、①16世紀のスペイン（カスティーリャ・レオン王国）によるインディアス（主に現中南米諸国）征服を支えた法的理論、②インディアスで活動した修道士達、特にラス・カサスの先住民擁護活動の特色と影響を解説する。そこから、「エンコミエンダ制」（擬似奴隷制）の下で奴隷化された先住民の状況やそれに対するカトリック教会の対応策を学ぶ。</p> <p>第12回 南アフリカの人種隔離政策（アパルトヘイト）とネルソン・マンデラ① ここでは、まず、アパルトヘイトの制定の経緯とそれと戦ったネルソン・マンデラの政策を説明し、次に、それを主題とした映画（視聴覚教材）を通して彼の思想や生き方を学ぶ。そこから、中南米や米国と同様に人種差別が深刻であった南アフリカの歴史やその不条理と闘った指導者達の活動の精神を学ぶ。</p> <p>第13回 南アフリカの人種隔離政策（アパルトヘイト）とネルソン・マンデラ②</p>

	<p>ここでは、前回と同様、映画（視聴覚教材）を用いて前掲のテーマを解説した上で、テーマを要約する。</p> <p>第14回 米国キリスト教史 ここでは、①米国の建国時から現代までの通史と特色、②キング牧師の「公民権運動」による人種問題への対応、③現代の米国が抱える諸問題（racismや性的少数者への対応、多元化する宗教等）を解説する。そこから、米国という国家をキリスト教史の観点から考察する。</p> <p>第15回 日本のキリスト教史 ここでは、①主に明治期から現代までのキリスト教史を通して、②プロテスタント系学校教育、キリスト教社会活動団体の日本社会への影響、③天皇制とキリスト教（「信教の自由」をめぐる闘い）を解説する。この通史的学びから、長い歴史を持ちながらも、キリスト教が日本社会に定着し難い理由や今後の課題を考察する。</p>
授業の概要	<p>【講義概要】 キリスト教の歴史的發展を原始キリスト教会から現代までの歩みを概観し、現代世界に横たわるキリスト教世界の精神的軌跡と諸課題を学ぶ。順序としては、古代から近世までのキリスト教史を時系列的に解説していく。また、その過程でキリスト教から見た人種問題の歴史、米国史、日本キリスト教史、キリスト教とイスラム教との関係にもふれる。</p> <p>【展開方法】 ①担当教員によるテーマに関する質問、②それに関するテーマ内容の解説（聖書、教科書、配布資料から）、③学生からの質問と要約の順序で講義を進行する。また必要に応じて、テーマに関連する視聴覚教材（画像や動画）も適宜使用する。</p>
予習	担当教員が指定・配布する次回のテーマに関する教科書、資料を読み、事前に学習内容を把握しておく。
復習	定期的に配布する「復習プリント」を次回の講義終了後に提出する。ここでは、テーマに関する問い（1問）を出題し、学生は質問があれば、それも記入できる。そのによって、各テーマ内容の確実な理解を目指す。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本聖書協会（編）『聖書』新共同訳、日本聖書協会、1987年。 ・斎藤正彦『キリスト教の歴史』、新教出版社、2005年。 <p>※使用テキストは初回の講義で説明するので、確認してから購入すること。</p>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・荒井献・出村彰・出村みや子『総説キリスト教史1～3』、日本キリスト教団出版局、2006・07年、他。なお、参考図書は毎回の講義時に配布する資料に記載しておく。
評価方法・評価基準	<p>【平常点】40%：①「復習プリント」、②課題、③授業参加度。 ※「月曜礼拝」出席も本学の「建学の精神」、聖書およびキリスト教の幅広い理解の向上を目指すという理由から、評価に反映させる。</p> <p>【期末試験（レポート）】60% ・期末レポートは講義で扱ったテーマ（キリスト教史の中の人物の思想と生涯あるいは歴史的事件）を1つ選択し、作成する。なお、テーマの選択方法やレポートの書式の詳細については講義の中で連絡する。</p> <p>【DP 1～3との関連】 ○ 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・保育科の当該教員担当クラスでは「新約聖書学」をテーマとして講義する。その講義目標、計画、概要、予復習の内容、教科書、評価方法・評価基準、履修上の注意は初回の授業時に資料を配布・説明する。 ・毎回、『聖書』（新共同訳版）も必ず持参すること。 ・「月曜礼拝」出席を奨励する。 ・出席（毎回とる）、課題提出および学生として相応しいマナー（私語、飲食、スマホの使用の禁止）を心がけること。 ・「キリスト教Ⅰ」を履修しておくこと。 ・講義やキリスト教に関する質問があれば、講義時や「オフィス・アワー」を利用するとよい。
オフィスアワー	<p>青野：毎週木曜日 2限目 研究室（西研2-2） 望月：（仮）授業終了後に質問を受け付けます。</p>
課題に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出された「復習プリント」および課題は、担当教員が点検した後、講義時に返却する。また、学んだ内容の理解を確実にするため、記述内容の改善点があれば、担当教員が講評を述べる。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(1-1)	必修科目
担当教員			
上原 明子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 文章リテラシー教育を通して、クリティカル・シンキングとロジカル・シンキングを学ぶ</p> <p>【到達目標】 新書読書の習慣が身に付くと同時に、ブックリポート作成ができるようになる。文書の読解力と要約力、クリティカル・シンキングを鍛えることで、社会的事象に対する提言ができるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション/図書館ツアー（前期クラスのみ）/「研究倫理規程」について テキスト「おわりに」 授業前半は、表現技法クラスを学ぶことの意義についての説明と研究倫理規程についての説明。その後、テキストの「おわりに」を読みながら、新書読書の意義についてのレクチャーを行う。授業の後半は、図書課にて「図書館ツアー」を行う。 課題：図書館で本を一冊借りて、レポート作成。</p> <p>第2回 精読（1）新書読書入門 テキスト第二部第一章 新書版テキストの読みの基礎として段落に番号を打つことと線引き読書を学ぶ。紹介したい箇所についての引用とコメントを行い、クラス内で読み合うことで、コール・アンド・レスポンスで学び合うことを体験する。読み手を意識した文章を書くことは、語彙力や表現力を高めることに繋がる。 課題：読書クイズ作成と解答作成。</p> <p>第3回 精読（2）新書読書実践 テキスト第二部第二章 読書クイズと解答作成を通して、テキストを精読する。前回に引き続き、段落に番号を打つことと線引き読書への認識を強化する。また、引用とコメント、レスポンスコメントを通して、読み手意識のある文章作成への認識を強化する。 課題：読書クイズ作成と解答作成。</p> <p>第4回 批判的読み テキスト第二部第三章 クリティカル・シンキングについて学ぶ。テキストの中の疑問点を抜き出し、なぜ、疑問に思うのか説明文を書き、その疑問点を解決するための案を作成することで、クリティカル・シンキングを実践する。 課題：授業を通して学んだクリティカル・シンキングに対しての定義と「批判的思考」以外の日本語訳を考案する。</p> <p>第5回 要約（1）キーワードの分類 テキスト第二部第四章 T字ノートを作成することを通して、読み取りの要点（キーワード）を分類する力を養う。各段落毎のキーワードを、T字ノートの左側（名付けキーワード）と右側（説明キーワード）に分類しながら、文章の論理的構造の基礎を学ぶ。 課題：T字ノート完成。ひとつの段落を文章化。</p> <p>第6回 要約（2）段落再構築 テキスト第二部第五章 T字ノートを作成し、内容に沿って、段落を3つに再構築する。この作業を通して、内容の読み取りと論理的構造の認識を深めていく。 課題：T字ノートの完成。段落再構築についての理由の説明文作成。ひとつの段落を文章化。</p> <p>第7回 要約（3）要約のための分析 テキスト第二部第六章 T字ノートを作成するにあたり、字数制限のある要約文を書くために段落の取捨選択のルールを学ぶ。「捨てる箇所（前置き、説明、引用、繰り返し、飾り言葉）」を認識することで、よりの確な読解ができるようになる。完成したT字ノートをもとに、400字に要約する。 課題：要約文の推敲と清書。</p> <p>第8回 要約（4）要約文まとめ テキスト第二部第七章 自力でのT字ノートの作成（段落分け、キーワード分類、段落再構築）と要約文（400字）作成。 課題：テキスト第二部一章から六章の中から、一つ選び、T字ノートと要約文作成。</p> <p>第9回 ブックリポート（1）概要説明と下書きメモ作成 テキスト第一部全部 第1回から8回の授業のまとめとして、ブックリポートを三段構成の論理的文章として作成する。作成手順は、本論、序論、結論。本論は、テキスト第一部を読み、3箇所についての引用とその箇所についての感想を書く。序論はその三箇所を要約しテキストの紹介を行う。結論は、テキストからの学びをもとに、自分自身の「本当の豊かさ」についての考察を述べる。 課題：テキスト第一部読み。下書きメモ完成。授業内で提出できない場合は、指定期日までに研究室へ提出。</p> <p>第10回 ブックリポート（2）下書き提出と個別指導 下書きメモについての個別指導と添削を受ける。それに基づき、推敲を行い、パソコン原稿で下書きを作成する。 課題：下書き完成（パソコン原稿）。授業内で提出できない場合は、指定期日までに研究室へ提出。</p> <p>第11回 ブックリポート（3）口頭報告・清書提出</p>

	<p>下書きを添削したものをもとに、清書を完成する。口頭報告の方法と口頭報告を客観的に評価する方法を学び、実践する。書き言葉を話し言葉に転換し、制限時間内での口頭報告を行う。 課題：清書完成。口頭報告書と評価報告書作成。</p> <p>第12回 提言文（1）テーマ決定と下書きメモ作成 表現技法クラスのまとめの段階として、社会的事象に対する提言文に取り組む。新聞記事を探索することで、社会的事象への関心を高め、提言文を書くことで論理的な文章を学ぶことが世の中と繋がることを実感する。序論では、新聞記事を要約し、原因推定とその解決策をクリティカル・シンキングする。本論では、第11回までに読み切った新書テキストの中から、解決策に関連する箇所を引用しながら自分の論を展開する。結論は、社会に対しての提言を行う。 課題：新聞記事選定。下書きメモ作成。授業内に提出できない場合は、指定期日までに研究室へ提出。</p> <p>第13回 提言文（2）文献探索と下書き 下書きメモの添削をもとに、パソコン原稿として下書きを作成する。 課題：下書き完成。授業内に提出できない場合は、指定期日までに研究室へ提出。</p> <p>第14回 提言文（3）下書き提出と個別指導 下書きについての個別指導と添削を受ける。それをもとに、推敲を重ね、清書を行う。 課題：清書完成。</p> <p>第15回 提言文（4）口頭報告・清書提出 完成した清書をもとに、口頭報告を行う。ブックリポートでの口頭報告をグレードアップさせて、プレゼンテーション的な手法を学ぶ。</p>
授業の概要	新書版テキストを通して、多様な文章リテラシー教育を行う。線引き読書と読み手を意識したコメントを書くことから始まる、精読、批判的読み、要約という基礎的段階を経て、その完成としてのブックリポート作成。最終的に、社会的事象に対する提言文という論理的文章を作成することで、初年次教育の一環としての文章リテラシーを鍛える。
予習	シラバスを確認し、テキストの指定箇所を読み、要点をまとめてくること（約2時間要す）
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと（約2時間要す）
テキスト	『「ゆっくり」でいいんだよ』辻信一（ちくまプリマー新書）
参考書	講義にて適宜紹介
評価方法・評価基準	<p>1 ブックリポート30% 2 提言文50% 3 その他課題への取り組み20%</p> <p>【DP 1～3との関連】</p> <p>.. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。</p> <p>○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。</p> <p>.. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。</p>
履修上の注意	・授業参加についてのセルフ・ルールを決めて実行してください
オフィスアワー	毎週水曜日（11：00～12：30）研究室
課題に対するフィードバック方法	予習・復習の課題については、授業内で返還。ブックリポート、提言文については、各自のメールボックスに返還。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(0-2)	必修科目
担当教員			
内間清晴・高江洲義尚			

授業のテーマ及び到達目標	<p>PCの基礎的操作方法を習得させる。具体的にはワープロによる文章の作成、表計算ソフトによる数値情報の分析方法等が実践的に修得できる。</p> <p>(1) 基本的な情報倫理の理解ができる。 (2) 電子メールの送受信・転送設定等ができる。 (3) 200字以上/1分間のタイピング能力が身についている。 (4) インターネットを活用し、基礎的な情報収集ができる。 (5) ワープロによる文章の作成ができる。 (6) 表計算ソフトによる数値情報の分析ができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：①パソコンの概念 ②使用登録・パスワードの設定 ③電子メールの設定 ①パソコンの歴史、基本的な情報倫理を扱う。 ②各学生に配布されているパスワードのおよび電子メールの設定を行い、使用できるようにする。</p> <p>第2回 パソコンの概念：①Windowsの基本操作 ②OSの基本操作 ③インターネット ①Windowsの歴史、OSの種類について学び、実際にインターネットを使用できるようにする。</p> <p>第3回 Word2016：①Wordの基本操作 ②文章の作成保存 ①Word2016を起動させ、ページレイアウトを設定し、文書を入力し保存ができる。</p> <p>第4回 Word2016：①文字のデザイン ①フォントサイズの変更、カラー、スタイルの変更ができる。 ②文字列の変更、文字の下線、網かけ、段抱く番号、行間の設定等ができる。</p> <p>第5回 Word2016：①ビジュアル要素の設定（チラシ作成） ①基本デザイン、罫線による行全体のデザイン、テキストボックスで文字のデザイン等ができる。 ②画像の挿入および編集ができる。</p> <p>第6回 Word2016：①可能性の高いデザイン（ポスター作成） ①テキストボックスでレイアウト、均等割付けおよび割注等の設定ができる。 ②図形の挿入、テキストボックスのスタイル変更およびモニターの画像の文書内貼付け等ができる。</p> <p>第7回 Word2016：①段組み 縦書きレイアウト ①段組みおよびヘッター・フッターの設定ができる。 ②縦書き2段組みレイアウト作成ができる。</p> <p>第8回 Word2016：①表の作成 ②表の編集 ①表の作成。行と列の挿入およびセルの分割・結合ができる。 ②表をテキストボックス化ができる。</p> <p>第9回 Word2016：①はがきデザイン（ラベル作成） ①はがきサイズにページ設定ができる。 ②挨拶文の自動入力ができる。 ③名刺のラベル作成およびデザインができる。</p> <p>第10回 Excel2016：①Excelの基本操作 ②データ入力 ①Excel2016を起動させ、画面の名称と機能を知る。 ②データを入力し、セル幅・高さの変更および数値の表示形式の変更等ができる。</p> <p>第11回 Excel2016：①計算式の設定 ②関数設定 ①数式を入力し計算ができる。 ②計算式のコピーおよびオートサムSUMでの合計計算ができる。 ③平均値、最大値・最小値を求める事ができる。</p> <p>第12回 Excel2016：①データの条件設定 ①条件付き書式の設定ができる。 ②If関数の条件設定ができる。</p> <p>第13回 Excel2016：①集計表作成 ②グラフ作成 ①行と列の合計が同時にできる。 ②絶対参照を使う事ができる。 ③グラフを作成し、種類の変更ができる。</p> <p>第14回 Excel2016：①データの並べ替え ②データ検索 ①データベースの構造が理解できる。 ②データベースの並べ替えができる。 ③データの検索および抽出ができる。</p> <p>第15回 Excel2013：①データへ分析 ②まとめ ①予想シートが作成できる。 ②相関をもとめる事ができる。</p>
授業の概要	<p>① コンピューター操作の基本的な知識・技能を習得し、究極的には情報を自由に検索、享受、処理、加工、創造、発信が行えるような情報リテラシーを育て、コンピューターを日常使いこなせるための基礎を学ぶ。また、情報化社会へ参画する姿勢についても学ぶ。</p> <p>② 毎回の演習内容を復習し次回の演習の予習を行う。（15回分の講義内容は指定フォルダ内にあります。）</p>

予習	指定されたフォルダ（イントラネット）から1～15回までの講義内容を常に確認し、次回の講義内容を確認し、予習する。
復習	毎回の講義内容を復習し、与えられた課題を行う。
テキスト	『例題35+演習問題65でしっかり学ぶWord/Excel/PowerPoint標準テキスト(office 2016 対応版)』
参考書	よくわかるWordデータ，よくわかるExcelデータ
評価方法・評価基準	<p>課題80点, タイピング10点, 授業への参加意欲10点 全36までの課題の提出状況（提出した課題内容が不十分なときは、再提出させます。） タイピングの能力</p> <p>【D P 1～3との関連】 .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 ○ 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。</p>
履修上の注意	各自USBメモリーを準備すること 演習の授業です。受け身にならず、積極的に課題に取り組んで下さい。
オフィスアワー	内間：金曜日（14:40～16:00）内間研究室 上記の時間以外でも対応可能（事前予約必要） 高江洲：（仮）授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	提出してもらった課題の状況を定期的にチェックし、学生各自にフィードバックを行います。提出した課題の内容が不十分な場合には再提出してもらいます。

講義科目名称：文学と読書

授業コード：

英文科目名称：Literature and Reading

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
上原 明子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 文学に対する造型を深め、生涯を通しての読書愛を醸成する。</p> <p>【到達目標】 鍛錬型読書を通じ、批判的思考力、共感的想像力を培うことができる。ビブリオプレゼンの技術を高めることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション ～読書習慣と読書愛を育むことの意義～ 「読書習慣、読書愛を育むことの意義」についてのレクチャーを行う。 読書の意義について書かれているエッセイや論文、小説を手掛かりに読書の意義を読み解きながら、自分自身の読書観を構築する。 課題：授業配布の資料から学んでことに照らしながら、自分自身の読書観についてレポート作成。</p> <p>第2回 ジャンル1：絵本 総合芸術としての絵本についての分析と鑑賞を行う。 教師の用意した絵本の中から1冊選び、パートナーを組んで「読み愛」を行いながら、絵本を鑑賞する。 自分の選んだ絵本についての分析（絵、場面構成、テキストについて）を行い、絵本を評価する。 課題：「読み愛」報告書作成。絵本分析レポート作成。</p> <p>第3回 ジャンル2：児童図書 児童文学についての分析と鑑賞を行う。 ビブリオプレゼンの手法を用い、各自の持参した児童文学についてのプレゼンテーションを行う。 発表者に対して、的確な質問を行い、読書コミュニケーションへと発展させる。 課題：児童文学読書日記レポート作成。ビブリオプレゼンの評価シート作成。</p> <p>第4回 ジャンル3：エッセイ 「生命」や「平和」をテーマとしてエッセイについての分析と鑑賞を行う。 ビブリオプレゼンの手法を用い、各自の持参したエッセイについてのプレゼンテーションを行う。 発表者に対して、的確な質問を行い、読書コミュニケーションへと発展させる。 課題：エッセイ読書日記レポート作成。ビブリオプレゼンの評価シート作成。</p> <p>第5回 ジャンル4：小説 生命」や「平和」をテーマとして小説についての分析と鑑賞を行う。 ビブリオプレゼンの手法を用い、各自の持参した小説についてのプレゼンテーションを行う。 発表者に対して、的確な質問を行い、読書コミュニケーションへと発展させる。 課題：小説読書日記レポート作成。ビブリオプレゼンの評価シート作成。</p> <p>第6回 「鍛錬型読書と趣味型読書」について 体系的な言語教育についてのレクチャーを行う。 子守唄、わらべうた、ごっこあそび、リズムある詩の朗読、演劇、文学鑑賞、エッセイ作成、論理的文章作成という体系的な言語教育のそれぞれの段階を支えるものとしての「鍛錬型読書」の意義を学ぶ。 課題：各自の読書ストーリーのレポート作成</p> <p>第7回 ビブリオバトル①理論 ビブリオバトルについての理論を学ぶ。 これまでの授業で実践してきたビブリオプレゼンについての考察を行う。 ビブリオプレゼンの口頭報告のための原稿を、効果的なプレゼンのための推敲を行い、助言しあう。 課題：ビブリオバトルに向けての口頭報告書の推敲を行う。</p> <p>第8回 ビブリオバトル②実践 図書館主催のビブリオバトルに参加する。参加者全員に、効果的な質問を行うことを義務づける。 課題：ビブリオバトルについての評価、課題発見、新企画の提案、プレゼンの原稿改訂のレポートを作成。</p> <p>第9回 宮沢賢治①「よだかの星」（朗読鑑賞） 宮沢賢治「よだかの星」について、朗読を通して鑑賞と分析を行う。 宮沢賢治についての情報を持ちより、クラスの中での賢治論を構築する。 「よだかの星」の作品のテーマについて、朗読をとおして接近する。 課題：宮沢賢治についてのレポート作成。「よだかの星」のテーマ分析レポート作成。</p> <p>第10回 宮沢賢治②「銀河鉄道の夜」（4つの原稿比較） 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」の第一次から第四次原稿についての比較を行う。 それぞれの原稿に共通するモチーフと異なるモチーフを分析する。主人公ジョバンニの庇護者から独立者への変化について考察する。 課題：「銀河鉄道の夜」について、各自の視点から作品解体を行い、レポートを作成する。</p> <p>第11回 内村鑑三「後世への最大遺物」（二次文献から迫る） 内村鑑三「後世への最大遺物」の二次文献を読み解く。 作品が人生に及ぼす影響力について考察し、「生きる意味」についての各自の考えをスピーチする。</p>

	<p>第12回 課題：「後世への最大遺物」についてのブックリポート作成。 武者小路実篤「馬鹿一」（内容論） 武者小路実篤の小作品「馬鹿一」について、精読を行う。 「本当の豊かさ・幸福」について考察し、クラス内でディスカッションを行う。</p> <p>第13回 課題：「本当の豊かさ・幸福」についてのレポート作成。 ジャンル5：詩歌 吉野弘「生命は」他 詩歌についての鑑賞と分析を行う。 群読という手法を用い、詩歌の持つリズムと響きを体感しながら、作品を身体化する。 課題：「生命は」の群読台本作成。</p> <p>第14回 ジャンル6：評論 長田弘『なつかしい時間』 評論文の論理的構造を解体し、ロジカル・シンキングについて考察する。 T字ノート作成、要約文作成、起承転結からなる小論文作成を通して、「伝わる文章表現」についての理解を深める。 課題：小論文完成。</p> <p>第15回 まとめ、ビブリオプレゼンとレポート ジャンル1～6のうち、ひとつを選び、ビブリオプレゼンを行う。 「読書観」についてレポート作成し、口頭報告を行う。</p>
授業の概要	青年期に必要な鍛錬型読書を体系的に学ぶことで、読書力の養成を行なう。多様な文学作品に触れることで、自己の生き方への考察を深める。作品の鑑賞、作家論の学習に加え、作品朗読を行うことにより、読書の身体化を図る。ビブリオプレゼンへの取り組みを通して、読書コミュニケーションについての認識を深める。
予習	シラバスを確認し、授業で扱う作品を精読しておくこと（約2時間要す）
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと（約2時間要す）
テキスト	シラバスに示された作品や資料のコピーを教師が適宜配布する。
参考書	授業の中で適宜紹介する。
評価方法・評価基準	<p>課題や発表への取り組み等を総合的に評価する。 課題の提出50% ビブリオプレゼンへの取り組み50%</p> <p>【D P 1～3との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。
履修上の注意	図書館を積極的に活用すること。 ジャンルによっては、読むのに時間のかかる読書材があるので、計画的に読んでおくこと。
オフィスアワー	毎週水曜日（11：00～12：30）研究室
課題に対するフィードバック方法	基本的に、授業にて返還する。 最終レポートは、各自のメールボックスに返還する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
上原 明子			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 日本語の音声学的知識と実践的な音声表現を学び、言語感覚を磨く。 【到達目標】 日本語の音声学の知識を得る。朗読の表現方法の理論を学び、実践できる。作品のリズム構造の分析や群読表現を通して、作品への理解を深める。集団でのパフォーマンスにおける責任感を培い、コミュニケーション力を養う。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・群読体験 呼吸法、身体ほぐし体操、発音・発声のアラカルトと、群読を体験する。 日本語の音声学的知識を学ぶと同時に、音声表現の実践と、芸術的表現を学ぶことの意味についてオリエンテーションを行う。 課題：授業であつかった群読作品についての鑑賞レポートを作成。</p> <p>第2回 声・呼吸・響き 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の理論と実践。 わらべうたのリズムと響きを体験。 課題：授業であつかった「丹田呼吸法」を中心に呼吸法についてのレポート作成。</p> <p>第3回 深い呼吸に支えられた深い声 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の実践。 ピッチアクセントについての理論と実践。 課題：ピッチアクセントのリズム練習表のオリジナル版を作成。</p> <p>第4回 美しいリズムと声の響き（1）内に向かうリズムと外に開くリズム 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の理論と実践。 リズムについての理論と実践。古代ギリシアのアナペストとダクトゥロスのリズムの獲得。 課題：アナペストとダクトゥロスの2つのリズムを表現する詩歌作成。</p> <p>第5回 美しいリズムと声の響き（2）言語におけるリズム構造について 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の実践。 日本語のリズム構造（拍、モーラ、ポーズ、フット）についての理論と実践。 アクセントとイントネーションの理論と実践。 課題：指定作品のリズム構造の分析レポート作成。</p> <p>第6回 美しいリズムと声の響き（3）日本語作品におけるリズム構造の分析 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の実践。 作品のリズム構造分析。 課題：指定作品のリズム構造分析とアクセント記号の記譜レポート作成。</p> <p>第7回 群読について 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の実践。 群読の歴史と群読の技法（かけあい、わり・わり、おいかけ、BGM、漸減法・漸増法）について 課題：指定作品の群読台本作成。</p> <p>第8回 日本語音声学（1）基礎 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の実践。 日本語音声学の基礎（調音器官、母音と子音、D、ジョーンズの母音多角形）を学ぶ。 課題：調音器官の作図。</p> <p>第9回 日本語音声学（2）応用 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の実践。 日本語の3つの「ん」（【m】【n】【ŋ】）の語彙リストから、日本語音声学のルールを構築する。 課題：3つの「ん」の語彙リスト作成と分析。</p> <p>第10回 日本語音声学、群読の技法、呼吸法、発声 まとめ 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の理論と実践、再確認。 群読の技法をつかった台本作成。 日本語音声学の知識についてのふりかえり。 課題：授業1～9回までのまとめのレポート作成。</p> <p>第11回 表現する（1）台本音読 担当講師作成の群読パフォーマンス用台本の解説と音読。 課題：台本の読み込みと鑑賞レポート作成。</p> <p>第12回 表現する（2）リズムと響き 群読パフォーマンス台本の芸術的表現方法について。 課題：担当箇所についての表現方法についてのレポート作成。</p> <p>第13回 表現する（3）意識を連ねる 群読パフォーマンスのためのトレーニング。 課題：より深い鑑賞と表現についてのレポート作成。</p> <p>第14回 表現する（4）ゲネプロ（衣装着用） 群読パフォーマンスゲネプロ。 課題：グループ群読についての練習と台本完成。</p> <p>第15回 朗読パフォーマンス・レポート</p>

	群読パフォーマンス。 課題：群読パフォーマンスの感想レポート、第1～15回の授業全体についてのフィードバックレポート作成。
授業の概要	15回の授業のうち、前半は、音声学や群読の基礎力を養成し、後半は、音声表現のための実践トレーニングを行う。 前半クラスは「①体操・呼吸法・発声のトレーニング ②日本語の音声学・群読の技法についての講義 ③課題への取り組み」の3つの内容で行う。後半クラスは、群読パフォーマンスの台本を元に、実践的なトレーニングを行う。
予習	シラバスを確認し、講義内容についての情報収集レポートを作成する(約2時間要す)
復習	講義内で指示したタスクにとりくむ(約2時間要す)
テキスト	講師作成資料を配布。
参考書	テーマ毎に適宜紹介する。
評価方法・評価基準	日本語音声学についての授業内レポート30% 群読パフォーマンスへの参加と取り組み(群読台本含む)50% 最終レポート20% 【D P 1～3との関連】 .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」(キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー)をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。
履修上の注意	①体操のできる服装で参加すること②講師による配布資料をきちんとファイルしておくこと ③朗読パフォーマンスとゲネプロに参加できることが履修条件
オフィスアワー	毎週水曜日(11:00～12:30) 研究室
課題に対するフィードバック方法	基本的に、授業内で返還。 最終レポートについては、各自のメールボックスに返還。

講義科目名称：日本国憲法

授業コード：

英文科目名称：Japanese Constitution

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
鈴木 淳一			

授業のテーマ及び到達目標	そもそも法律とは別に、なぜ憲法があるのでしょうか？本講義では、日本国憲法の基本原理を学んだ上で、私達の身近にある憲法に関する具体的な問題をより深く理解することで、主権者である私達自身が、憲法の現在そして未来について考えられるようになることを目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、法学概論</p> <p>第2回 近代立憲主義の確立、明治憲法から日本国憲法へ</p> <p>第3回 日本国憲法の基本原理（憲法とは誰を縛るルールか？）</p> <p>第4回 人権総論（人権の分類、他）</p> <p>第5回 法の下の平等</p> <p>第6回 子供の権利、新しい人権</p> <p>第7回 精神的自由 総論</p> <p>第8回 精神的自由 各論（表現の自由）</p> <p>第9回 表現の自由の現代的展開</p> <p>第10回 経済的自由（財産権保障の構造他）</p> <p>第11回 社会権（自由権とはどう違うのか？）</p> <p>第12回 その他の人権、まとめ</p> <p>第13回 統治総論</p> <p>第14回 国会および内閣</p> <p>第15回 裁判所、平和主義</p> <p>第16回 まとめ 期末試験</p>
授業の概要	まず、近代立憲主義が確立されてきた世界の歴史や日本国憲法が成立するまでの歴史をたどり、次に、憲法で保障されている基本的な権利の内容を具体的な事例を基に解説します。そして、基本的人権を保障するための国の仕組みや平和主義について理解を進める予定です。
予習	配付レジュメや教科書の該当箇所を読んで来てください。
復習	講義で指示した点を復習してください。
テキスト	初宿正典他著『いちばんやさしい憲法入門第4版』有斐閣アルマシリーズ（有斐閣）
参考書	初宿正典他著『目で見る憲法 第4版』（有斐閣）
評価方法・評価基準	<p>期末試験の結果：50% 授業への参加度：30% 授業態度：20% などから総合的に評価する。</p> <p>【D P 1～3との関連】</p> <p>.. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。</p> <p>○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。</p> <p>.. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。</p>
履修上の注意	受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。

オフィスアワー	(仮) 授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対する フィードバック方 法	.

講義科目名称：心理学

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
仲村 将義			

授業のテーマ及び到達目標	身の回りの行動や現象について、心理学的に理解する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 構成的グループエンカウンター	
	第2回	心理学の歴史と方法 哲学から科学へ・4つの潮流	
	第3回	行動主義（刺激・反応で心を説明） 行動は学習による	
	第4回	ゲシュタルト心理学（全体論）と精神分析学（人を動かす無意識）	
	第5回	性格形成論（性格の成り立ち）と防衛機制（心の守り方）	
	第6回	自己決定性と目的論 人生の課題と勇気づけ	
	第7回	現代心理学 進んだ細分化・専門化	
	第8回	自分を知る心理学 エゴグラム他	
	第9回	恋愛に使える心理学 男女の違い	
	第10回	恋愛の心理メカニズム うまくいく恋の仕組み	
	第11回	「仕事」に使える心理学 役割による人間関係	
	第12回	人間関係に使える心理学 つきあい・ふれあいの仕方	
	第13回	折合いをつける心理学 自他の欲求調整法	
	第14回	ストレス対処の心理学 上手な怒り方とリラックス法	
	第15回	自分に活かす心理学 成りたい自分になる方法	
	第16回	期末試験	
授業の概要	1. 心理学の各分野の知見について、グループワークで学ぶ。 2. 心理学の知識を、受講者相互の日常的な現象と結びつけて理解する。 3. 心理学の見方や考え方を日常の人間関係や学業等に活かす力を育てる		
予習	講義の終わりに、次回の予習課題を示す。		
復習	出席用紙にそのつど本時の講義の要旨と感想をまとめるか小テストを行う。		
テキスト	匠 英一『これだけは知っておきたい心理学の基本と実践テクニック』フォレスト出版 1300円（税別）		
参考書	植木理恵 『ビジュアル図解 心理学』 中経出版 1400円（税別） ジンバルドー 『現代心理学』Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ サイエンス社 各3,132円、3,040円、3,320円		
評価方法・評価基準	期末試験65% 授業内レポート20% 発表5% 演習5% 授業への参加度5%		
	【DP 1～3との関連】 .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。		
履修上の注意	5回以上の講義欠席は、履修不足につき単位を認定できないので注意してください。		

オフィスアワー	(仮) 授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対する フィードバック方 法	.

講義科目名称：カウンセリング

授業コード：

英文科目名称：Counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
柳田 正豪			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング理論：基本的なカウンセリング理論を学び心や認知のメカニズムを学ぶ。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング技能：基本的な技法を用いてカウンセリングを行うことができる。
授業計画	<p>第1回 カウンセリングとは何か カウンセリングとは何かについて考えてもらう。教員の自己紹介を交えながら、スクールカウンセラーや精神病院で勤務していた経験を語る。精神疾患についても少し語る。授業の後半は学生自身の自己分析をおこない、自己について深く理解してもらう。</p> <p>第2回 臨床心理とカウンセリング 臨床心理士について語る。また国家資格となった「公認心理師」についても触れる。また臨床心理士の働く異なる職場についても触れる。授業の後半では、カウンセリングの専門用語についていくつか学ぶ。</p> <p>第3回 カウンセリング理論と技術 ① 精神分析療法 フロイトの精神分析療法について学ぶ。心の構造や意識・無意識について学ぶ。また精神分析療法から見た性格の形成や自由連想法についても学ぶ。</p> <p>第4回 カウンセリング理論と技術 ② 行動療法 古典的条件づけとオペラント条件づけを主に中心にして講義をすすめる。それぞれの特徴と違いに触れ、それぞれの治療方法を説明していく。</p> <p>第5回 カウンセリング理論と技術 ③ 認知行動療法 「認知」について考える。エリーのABC理論を使って、不合理な考え方の理解をしてもらう。認知のゆがみや認知行動療法の特質についても学ぶ。</p> <p>第6回 カウンセリング理論と技術 ④ 来談者中心療法 来談者中心療法までに至る心理学の流れを説明する。カウンセラーの3条件（純粋性、尊重性、共感性）を理解した上で、カウンセリングのロールプレーをしてもらう。</p> <p>第7回 ピアヘルパー ① 言語的技法パート1。ここでは受容、繰り返し、そして言い換えを学ぶ。授業の後半では、この学んだ技法を応用して、カウンセリングのロールプレーを行う。</p> <p>第8回 ピアヘルパー ② 言語的技法パート2。ここでは支持と開かれた質問・閉ざされた質問を学ぶ。授業の後半では、この学んだ技法を応用して、カウンセリングのロールプレーを行う。</p> <p>第9回 ピアヘルパー ③ 非言語的技法を学ぶ。適切な座る位置、視線、顔の表情、沈黙などを学ぶ。授業後半では、座る位置、表情に意識しながら、今まで学んだスキルを活かしてカウンセリングのロールプレーをしてもらう。</p> <p>第10回 ピアヘルパー ④ カウンセリングの対話で、遭遇する諸問題への対処法について学ぶ。話が進展しない場合、沈黙の場合、抵抗がある場合など、対処法を学ぶ。</p> <p>第11回 カウンセリング演習 ① カウンセリングには欠かせない共感性や自己開示、そしてパーソナリティについて学ぶ。</p> <p>第12回 カウンセリング演習 ② 心理テストを通して、自己分析を行う。またテストの結果を利用して、カウンセリングのロールプレーを行う。</p> <p>第13回 発達障害について 広汎性発達障害を主に学習する。AD/HDや自閉症スペクトラムについて学ぶ。</p> <p>第14回 精神疾患について 双極性障害、統合失調症、うつ病について学ぶ。</p> <p>第15回 今までのまとめ 今までのまとめ。今まで学んだことを総合的に復習する。また第1回目に行った自己分析を再度行い、前回のデータと比較してもらう。</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	<p>カウンセリングを学習するにあたっては、複数の理論と技法を学ぶ必要があるといわれ、また学習方法としては、ロジャーズの「来談者中心的カウンセリング」から始めた方が適切であるといわれている。人間の心の問題および人間関係の問題に際しての基本的なカウンセリング理論や技術等を、講義・演習・討議をとおして学習する。</p>
予習	レジュメを読み、事前に講義を再確認しておくこと。
復習	毎回の授業を復習し、毎クイズに備える。
テキスト	日本教育カウンセラー協会編2002『ピアヘルパー ハンドブック』 図書文化

参考書	影山任左 著 『図解雑学 心の病と精神医学』 ナツメ社 福山清蔵 著 『入門 カウンセリングワークブック』 日本・精神技術研究所 国分康孝 著 『カウンセリングの理論』 誠信書房
評価方法・評価基準	期末試験40% 小テスト30% 授業への参加度20% その他10% 【D P 1～5との関連】 .. 1 建学の精神に基づき、「平和」と「奉仕」を行動の規範として身につけている。 .. 2 多文化・異文化に関する豊かな教養と社会人基礎力を身につけている。 .. 3 国際的な視野と批判的思考力を身につけている。 ○ 4 英語・日本語による実用的なコミュニケーション能力を身につけている。 ○ 5 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（英語）の単位を授与する。
履修上の注意	授業内で配布した資料は期末テストに出るので、大切に保管すること。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 柳田研究室
課題に対するフィードバック方法	課題及び授業内の小テストは授業内で解答し、翌週に返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	1単位(1-0)	選択必修科目
担当教員			
安田 知子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 「体育≒スポーツ」を通して、現代社会に生きる人々や自分自身の「体（からだ）と内面（こころ）」について認識し、よりよいライフスタイルを構築するための知識と態度を養うことができる。</p> <p>【到達目標】 スポーツをスポーツ医・科学的観点から学ぶことにより、①スポーツを行う「体 からだ」を解剖学的知識（部位や働き）と運動学的知識（動き方）から考えることができる。②スポーツによる外傷や障害の対処や予防、生涯における疾病の対処や予防に役立てることができるようになる。③障がい者スポーツを学ぶことにより、垣根のない楽しむスポーツ（生涯スポーツやユニバーサルスポーツ）について考えることができるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 コースオリエンテーション：体育・スポーツとは？健康とは？ これから学ぶ講義全体の流れの説明</p> <p>体育、スポーツについての考え方とスポーツ医・科学の概要について WHOによる健康の定義</p> <p>第2回 体育・スポーツ指導者に必要な医学的知識 スポーツ整形外科とスポーツ内科について 学校現場で起こるケガや病気について（統計データから読み解く）</p> <p>第3回 スポーツ・運動毎に特徴なケガや病気 運動種目の特性によって起こるケガや病気について</p> <p>第4回 体育・スポーツによって起こる事故について考える 脳震盪や重度障害の残る外傷について 事故を想定した体育・スポーツイベントを開催するにあたっての計画（グループワークと発表）</p> <p>第5回 健康診断とメディカルチェック 健康診断とは何か スポーツにおけるメディカルチェックとは何か 実際に簡単なチェックを実施する</p> <p>第6回 運動学① 体の動きを科学する 体の動き方の実際 体の動きを分析する（座学）</p> <p>第7回 運動学② 体幹と骨盤周囲の動きを科学する 簡単な運動を通して、体幹の動きを確認する</p> <p>第8回 運動学③ 下肢の動きを科学する 簡単な運動を通して、下肢（膝関節・足関節・足部）の動きを確認する</p> <p>第9回 運動学④ 上肢の運動を科学する 簡単な運動を通して、上肢（肩甲帯・肩・肘・手関節、手指）の運動を確認する</p> <p>第10回 熱中症は自分で防ぐ 水分補給と食事について考える コンビニやスーパーを使って食事メニューを考える（課題）</p> <p>第11回 応急処置 外傷に対するRICE処置と緊急時の一次救命処置（胸骨圧迫とAEDの使い方） スマホアプリから見る応急処置（課題）</p> <p>第12回 ユニバーサルスポーツ① 障がい者スポーツ 障がい者スポーツの定義と東京オリンピックの関係</p> <p>第13回 ユニバーサルスポーツ② 生涯スポーツ 生涯スポーツの考え方とグループワークにおける考案</p> <p>第14回 ユニバーサルスポーツ？ 生涯スポーツの発表 自分たちが考案したユニバーサルスポーツ・生涯スポーツをお互いに実践する</p> <p>第15回 まとめ この講義で学んだことの振り返りと提出された課題（第10回、第11回）のまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>授業は、座学及び簡単な実技とアクティブラーニングの手法を併用して進めていく。 「体育≒スポーツ」をスポーツ医・科学という視点から、人体を構成する骨や筋の構造と機能について学び、さらにそれらの組み合わせによる身体の動きを実践する。また、スポーツを整形外科や内科学といった医学的観点から、スポーツによる外傷や障害の対処や予防、生涯にわたる疾病の対処や予防について学ぶ。更に、障がい者スポーツを学ぶことにより、垣根のない楽しむスポーツ（生涯スポーツやユニバーサルスポーツ）について考え、自分たちで考案し、学生間で実践することにより、指導法についても学ぶ。</p>
予習	日常生活において健康、スポーツに関する情報を収集して授業に臨んでください。

復習	講義中に実技を行うことが難しいことがあるため、講義内容の理解を深めるために講義外(日常生活)での実技(実践)を心がけてください。さらに実践を行ったうえで、積極的な質問を期待します。
テキスト	テキストは使用しない。講義ごとに適宜資料を配布する。
参考書	①目で見える動きの解剖学—スポーツにおける運動と身体メカニズム—(ロルフ・ヴィルヘッド著、大修館書店、1994年版、2600円程度) ②基礎運動学 第6版 補訂(中村隆一・齊藤宏・長崎浩著、医歯薬出版、2003年、7400円程度)
評価方法・評価基準	①期末試験(60%) ②毎回の講義終了時に提出する簡単な課題(15%) ③レポート課題(15%) ④受講者の発表(10%) 【DP 1~3との関連】 .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」(キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー)をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。
履修上の注意	講義中に体を動かすことがあります。事前にお知らせいたしますが、運動に適した服装で出席してください。
オフィスアワー	在学時間(授業時間及び前後30分)
課題に対するフィードバック方法	必要に応じて、質問等はメールでお願いいたします。

講義科目名称：体育実技

授業コード：

英文科目名称：Physical Education (Sports)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	1単位(0-3)	選択必修科目
担当教員			
音野太志・喜屋武享			

授業のテーマ及び到達目標	1) スポーツの楽しさ、喜びを味わうことができる。 2) スポーツに対して、「真剣に」「コミュニケーションを図りながら」実践することを通し、諸課題を解決しながら、個人またはグループの成長プロセスに介入できるようになる。
授業計画	<p>第1回 コースオリエンテーション(授業概要、目標、成績評価方法、等) 講義の進め方、注意点、評価方法等の説明を行う。 初回のアイスブレイクとして、全員で楽しめるスポーツを行う。</p> <p>第2回 ソフトバレーボール：練習、ゲーム 前半はグループに別れて練習を行う。 後半は、楽しめるようにルール変更した状態でゲームを行う。</p> <p>第3回 ソフトバレーボール：練習、ゲーム 前半はグループに分かれて練習を行う。 後半は、前回より若干難易度をあげてゲームを行う。</p> <p>第4回 ソフトバレーボール：練習、ゲーム 前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、評価対象となるリーグ選を行う。</p> <p>第5回 ソフトバレーボール：練習、ゲーム 前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、前回の続きとして評価対象となるリーグ戦を行う。</p> <p>第6回 インディアカ：練習、ゲーム 前半はグループに別れて練習を行う。 後半は、楽しめるようにルール変更した状態でゲームを行う。</p> <p>第7回 インディアカ：練習、ゲーム 前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、評価対象となるリーグ選を行う。</p> <p>第8回 インディアカ：練習、ゲーム 前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、前回の続きとして評価対象となるリーグ戦を行う。</p> <p>第9回 ドッジビー：練習、ゲーム 前半はグループに別れて練習を行う。 後半は、ドッジビーに慣れる様、簡易的なゲームを行う。</p> <p>第10回 ドッジビー：練習、ゲーム 前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、評価対象となるリーグ選を行う。</p> <p>第11回 ドッジビー：練習、ゲーム 前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、前回の続きとして評価対象となるリーグ戦を行う。</p> <p>第12回 ドッジビー：アルティメット、練習、ゲーム 前半はグループに別れて練習を行う。 後半は、ゲームを理解するために練習試合を行う。</p> <p>第13回 ドッジビー：アルティメット、練習、ゲーム 前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、評価対象となるリーグ選を行う。</p> <p>第14回 ドッジビー：アルティメット、練習、ゲーム 前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、前回の続きとして評価対象となるリーグ戦を行う。</p> <p>第15回 ドッジビー：アルティメット、練習、ゲーム 前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、前回の続きとして評価対象となるリーグ戦を行う。</p>
授業の概要	ドッジビー、ソフトバレーボール、インディアカをとりあげる。毎授業では練習と試合を実施する。個人とグループの諸課題について、1)実践 2)ふりかえり 3)次の課題設定 4)実践というプロセスを繰り返すことによって、個人またはグループの成長プロセスを考える機会とする。
予習	体調を整えて授業に備える。
復習	授業内容を振り返り、次の授業に備える。
テキスト	特になし
参考書	特になし
評価方法・評価基準	<p>授業への参加度60点 実技評価40点 計100点による。実技評価は、各種目のゲーム結果とする。</p> <p>【DP 1～3との関連】 .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と</p>

	<p>教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。</p> <p>○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。</p> <p>.. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。</p>
履修上の注意	<p>1) 体育館用のシューズを準備し、運動にふさわしいウェアで参加すること。</p> <p>2) 金属製のピアス、ネックレス、ブレスレット等、人を傷つけ、傷つけられる恐れのあるモノは外すこと。</p> <p>3) その他の注意事項は初回授業時に伝達する。</p>
オフィスアワー	音 野：授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	授業中にプレーに対してのアドバイスを行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
上原 明子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 円滑なコミュニケーションのための日本語音声表現を習得する。</p> <p>【到達目標】 インタビューについての技術を習得することができる。 インタビューの実施とその報告を行うことができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 日本語音声の知識と発音・聴読解レベルについての確認を行う。 課題：レベルチェッククイズの誤答についての分析を行う。</p> <p>第2回 コミュニケーションとは(1) 概要 テキスト第I部第1章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第3回 コミュニケーションとは(2) 練習問題への取り組み テキスト第I部第1章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第4回 相互インタビュー(1) 質問項目の設定とインタビュー表現 テキスト第I部第2章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第5回 相互インタビュー(2) インタビューの実践と報告 テキスト第I部第2章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第6回 特定の問題設定インタビュー(1) 質問項目設定 テキスト第I部第3章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第7回 特定の問題設定インタビュー(2) インタビュー実践と報告 テキスト第I部第3章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第8回 フリートークインタビュー(1) インタビュー様式の設定 テキスト第I部第3章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第9回 フリートークインタビュー(2) インタビューの実践と報告 テキスト第I部第3章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第10回 テーマをもって聞くインタビュー(1) テーマ決定・インタビューシート作成 テキスト第I部第4章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第11回 テーマをもって聞くインタビュー(2) インタビュー実践と報告 テキスト第I部第4章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第12回 テーマをもって聞くインタビュー(3) 報告書作成 テキスト第I部第4章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第13回 テーマをもって聞くインタビュー(4) プレゼンテーション準備 テキスト第I部第4章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第14回 プレゼンテーション(1) 実践 テキスト第I部第4章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第15回 プレゼンテーション(2) 改訂 テキスト第I部第4章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p>

授業の概要	テキスト第Ⅰ部「インタビューと他者紹介」についてじっくり取り組む。インタビューを通して、円滑なコミュニケーション方法についての知識と技術を鍛える。
予習	テキストの指定箇所について予習し、質問事項についてのリストを作成してくること（約2時間要す）
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと（約2時間要す）
テキスト	『日本語口頭発表と討論の技術』東海大学留学生教育センター口頭発表教材研究会 『毎日の聞きとり40上』日本語の凡人社
参考書	授業にて適宜紹介
評価方法・評価基準	毎回の授業ごとの聴解確認テスト30% 発表30% インタビューへの取り組み30% 授業質問リスト10% 【DP 1～3との関連】 .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。
履修上の注意	①日本語音声表現ⅠとⅡを続けて履修することが望ましい。 ②復習、課題をきちんとこなすこと。 ③辞書等を持参すること。
オフィスアワー	毎週水曜日（11：00～12：30）研究室
課題に対するフィードバック方法	授業にて返還。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
上原 明子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 円滑なコミュニケーションのための日本語音声表現を習得する。</p> <p>【到達目標】 スピーチについての技術を習得することができる。 スピーチ原稿作成ができるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、レベルチェッククイズ 日本語音声の知識と発音・聴読解レベルについての確認を行う。 課題：レベルチェッククイズの誤答についての分析を行う。</p> <p>第2回 スピーチのタイプについて（1）スピーチについての心構え テキスト第Ⅱ部第5章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第3回 スピーチのタイプについて（2）スピーチの技術 テキスト第Ⅱ部第5章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第4回 聴き方について（1）自己分析 テキスト第Ⅱ部第6章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第5回 聴き方について（2）評価方法 テキスト第Ⅱ部第6章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第6回 方法説明のスピーチ（1）表現について テキスト第Ⅱ部第7章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第7回 方法説明のスピーチ（2）テーマ選定と構成 テキスト第Ⅱ部第7章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第8回 方法説明のスピーチ（3）アウトライン作成 テキスト第Ⅱ部第7章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第9回 方法説明のスピーチ（4）スピーチ実践と評価 テキスト第Ⅱ部第7章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第10回 情報提供のスピーチ（1）情報提供の分類 テキスト第Ⅱ部第8章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第11回 情報提供のスピーチ（2）材料選定と構成 テキスト第Ⅱ部第8章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第12回 情報提供のスピーチ（3）スピーチ実践と評価 テキスト第Ⅱ部第8章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第13回 意見表明のスピーチ（1）構想のタイプ分析 テキスト第Ⅱ部第9章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第14回 意見表明のスピーチ（2）アウトライン作成 テキスト第Ⅱ部第9章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p> <p>第15回 意見表明のスピーチ（3）スピーチ実践と評価 テキスト第Ⅱ部第9章対応 『毎日の聞きとり40』より聴きとりチェッククイズ 課題：テキストの質問項目リストと解答レポート作成</p>

授業の概要	テキスト第Ⅱ部「スピーチ—各種スピーチの種類とその実施方法」についてじっくり取り組む。スピーチの技術を鍛えることを通して、円滑なコミュニケーションの習得をめざす。
予習	テキストの指定箇所について予習し、質問事項についてのリストを作成してこること（約2時間要す）
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと（約2時間要す）
テキスト	『日本語口頭発表と討論の技術』東海大学留学生教育センター口頭発表教材研究会 『毎日の聞きとり40下』日本語の凡人社
参考書	授業にて適宜紹介。
評価方法・評価基準	毎回の授業ごとの聴解確認テスト30% スピーチへの取り組み50% 授業質問リスト10% 最終レポート10% 【D P 1～3との関連】 .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。
履修上の注意	①日本語音声表現ⅠとⅡを続けて履修することが望ましい。 ②復習、課題をきちんとこなすこと。 ③辞書等を持参すること。
オフィスアワー	毎週水曜日（11：00～12：30）研究室
課題に対するフィードバック方法	授業にて返還。最終レポートは各自のメールアドレスへ返還。

講義科目名称：中国語

授業コード：

英文科目名称：Chinese

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
武村 朝吉			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 中国語の発音と声調コントロールの基礎を習得する。</p> <p>【到達目標】 基本的な文法事項を理解（36個の文型を習得）し、初級レベルの中国語の会話文が読め、簡単な作文と会話ができるレベルを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 授業概要の説明。中国語の発音（1）。授業の進め方、評価の基準についての説明。中国語の子音・母音の発音の仕方。</p> <p>第2回 中国語の発音（2）。中国語の声調（1）。有気音と無気音の発音の仕方。巻舌音の発音の仕方等。中国語の声調のコントロールについての説明。</p> <p>第3回 第1課：中国語の声調（2）。形容詞述語文（1）。疑問文。中国語の声調コントロールの練習。いろいろな形容詞述語文。“？”を用いた疑問文。</p> <p>第4回 第2課：形容詞述語文（2）。基数。いろいろな形容詞述語文。数字の数え方（1～10）。第2課の会話。</p> <p>第5回 第2課：練習。入れ替え練習。数字の数え方（1～31）。日付表現の練習。</p> <p>第6回 第3課：肯定文と否定文。肯定文と否定文の作り方。“？”を用いた疑問文。第3課の会話。</p> <p>第7回 第3課：練習。入れ替え練習。月・年の言い方。</p> <p>第8回 第4課：自己紹介の仕方など。動詞「是」。自己紹介の仕方、相手の名前の訊き方。動詞「是」の使い方。第4課の会話。</p> <p>第9回 第4課：練習。入れ替え練習。国籍の言い方。</p> <p>第10回 第5課：疑問詞を用いた疑問文。動詞「在」。中間試験。いろいろな疑問詞を用いた疑問文。動詞「在」の使い方。第5課の会話。中間試験。</p> <p>第11回 第5課：中間試験解説。練習。中間試験解説。入れ替え練習。「ちょっと～します。」「あなたはどこへ行きますか？」。</p> <p>第12回 第6課：名詞述語文。時間副詞。誘い方。いろいろな名詞述語文。「夜あなたは何をしますか？」「～するのはどうですか？」。第6課の会話。</p> <p>第13回 第6課：練習。入れ替え練習。「明日は何曜日ですか？」「午後彼の家には彼に会いに行きます。」。</p> <p>第14回 第7課：「動詞＋目的語」構造。「動詞＋介詞＋目的語」構造。文末の「了」。「動詞＋目的語」「動詞＋介詞＋目的語」構造の用いられ方。語気助詞「了」の文法的意味。第7課の会話。</p> <p>第15回 第7課：練習。入れ替え練習。「（どこどこ）で（何々を）します。」「あなたは（兄弟姉妹）がいますか？」</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	中国語のピン音（発音記号）の概要を説明するとともに、個々の発音・声調の具体的発声方法の十分な練習を行う。それに引き続き、基本的な文法事項を学習し、その応用として、会話練習、作文練習を行う。
予習	授業内容を事前に目を通しておくこと。
復習	ピンイン、簡体字の書き取り練習を行うこと。多く音読練習をすること。
テキスト	『漢語会話301句』康玉華・来思平著作、語文研究社
参考書	中日辞典など
評価方法・評価基準	<p>中間試験及び期末試験80% 授業参加度・発表20%。</p> <p>【DP 1～3との関連】</p> <p>.. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。</p> <p>○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。</p> <p>.. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。</p>

履修上の注意	相互（学生⇄教師，学生⇄学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。6回以上欠席で「不可」とする。
オフィスアワー	（仮）毎週**曜日 **限目 武村研究室
課題に対するフィードバック方法	授業中逐次フィードバックする。

講義科目名称：韓国語

授業コード：

英文科目名称：Korean

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
李 春花			

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業を通し、韓国語のみならず隣国である韓国の文化や社会に対する理解を深め、21世紀の主演として、国の境界線を越えたグローバルな視点を養い、将来様々な形で国際的交流に役立つ能力を身につける。</p> <p>知識理解：ハングル文字を読み書き、易しい日常会話と発音を聞き話し、簡単な文法を説明できる。</p> <p>関心意欲：異文化コミュニケーションに興味を持てる。</p> <p>態度：専門性、責任意識を持つ。</p> <p>思考判断：日本と韓国との文化や社会的共通点と相違点を指摘できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション／韓国を知る・ことばの特徴・ハングル文字 韓国を知るDVD『子犬の糞』の鑑賞を行う。韓国の歴史と文化と共に歩んできた韓国語のことばの特徴・ハングル文字の背景と仕組みについての紹介を行う。</p> <p>第2回 テキスト第1課 挨拶表現(1)と母音(1)、歌の学習 簡単な挨拶表現の会話文と一般的な自己紹介の仕方、《ハムニダ体とヘヨ体の違い》について紹介し、その会話文の発音の練習を行う。ハングル文字の基本母音の文字8つとその音価の読み書きについての文法の説明を行い、発音の練習を行う。韓国の歌『アヒラン』、『熊三匹』、『君は愛されるために生まれた』のMVを紹介し、韓国語で歌う練習を行う。</p> <p>第3回 テキスト第2課 挨拶表現(2)と子音(1)・母音(2) 初対面の挨拶表現の会話文や《敬語の遣い分け》についての歴史的文化的背景の紹介を行い、その会話文の発音練習を行う。ハングル文字の基本子音9つの文字、その名称や発音の音価と、母音(や行音)6つの文字とその発音の音価の読み書きについての文法の説明を行い、発音の練習を行う。K-popのMVの紹介を行う。</p> <p>第4回 テキスト第3課 挨拶表現(3)と子音(2)・母音(3) 「立ち去る人」と「居残る人」に遣い分ける別れの挨拶表現の会話文や、《日本語話者にとって語彙を増やしやすい漢字語》についての紹介を行い、その会話文と単語の発音の練習を行う。ハングル文字の子音(激音5つと濃音5つ)の文字、その発音の音価や名称と、母音(わ行音)7つの文字、その発音の音価と読み書きについての文法の説明を行い、発音の練習を行う。K-popのMVの紹介を行う。</p> <p>第5回 テキスト第4課 挨拶表現(4)と終声(パッチム) 感謝の挨拶表現の会話文や《日常でよく使う単語》についての紹介を行い、その会話文と単語の発音の練習を行う。ハングル文字の子音の代表終声(パッチム)の7つの文字、その発音の音価や名称の読み書きについての文法の説明を行い、発音の練習を行う。K-popのMVの紹介を行う。</p> <p>第6回 テキスト第5課 挨拶表現(5)と発音の変化 謝罪の挨拶表現の会話文についての紹介を行い、その会話文の発音の練習を行う。ハングル文字の発音変化の規則8つ(有声音化、連音化、濃音化、激音化、鼻音化、ヒウt弱化、流音化、ニウn挿入)についての文法の説明を行い、その用例の単語の発音の練習を行う。</p> <p>第7回 テキスト第6課 自己紹介と指定詞 プリント配分の初対面の挨拶表現と自己紹介をまとめた会話文や、《ハングルによる日本語表記法》についての紹介を行い、その会話文と単語の発音の練習を行う。その会話文に基づいて指定詞(～だ)のハムニダ体とヘヨ体の平叙形(～です)と疑問形(～ですか)などの文法についての説明を行う。</p> <p>第8回 テキスト第7課 お住まいの会話と指定詞の否定形、学生のレポート発表&意見交換1 プリント配分のまとめの配分のお住まいの会話文や疑問詞6つの用例についての紹介を行い、その会話文と用例の発音の練習を行う。その会話文に基づいて指定詞の否定形(～ではない)のハムニダ体とヘヨ体の平叙形(～です)と疑問形(～ですか)などの文法や、《分かち書き》についての説明を行う。学生によるレポート発表とその主題についての感想や意見を述べてもらう。</p> <p>第9回 テキスト第8課 趣味の会話とハムニダ体(改まりの上称形)、学生のレポート発表&意見交換2 プリント配分の趣味の会話文や《趣味をあらわす単語》について紹介し、その会話文と単語の発音の練習を行う。その会話文に基づいて形容詞や動詞のハムニダ体(～です/～ます)の平叙形(～です)と疑問形(～ですか)などの文法や《姓名と人名表記》についての説明を行う。学生によるレポート発表とその主題についての感想や意見を述べてもらう。</p> <p>第10回 テキスト第9課 会話(1)と漢数字、学生のレポート発表&意見交換3 プリント配分のまとめの会話文(1)について紹介し、その会話文の発音の練習を行う。漢数詞や月の数え方などの文法についての説明を行う。韓流ドラマの紹介を行う。学生によるレポート発表とその主題についての感想や意見を述べてもらう。</p> <p>第11回 テキスト第10課 会話(2)と固有数字、学生のレポート発表&意見交換4 プリント配分のまとめの会話文(2)について紹介し、その会話文の発音の練習を行う。固有数詞や時刻の表し方などの文法についての説明を行う。韓流ドラマの紹介を行う。学生によるレポート発表とその主題についての感想や意見を述べてもらう。</p> <p>第12回 まとめ・授業内試験(会話) プリント配分のまとめの会話文(1)(2)をもとに口頭試験として先生と学生の的一对で聞いて話してもらう。ただし、その口頭試験を待つ学生や終わった学生はプリント配分のシートワークを書いてもらう。</p> <p>第13回 復習や授業についての意見交換 講義で学んだことをもとにハングル文字の母音と子音の文字についてのまとめの復習を行う。韓国語を学んでの感想や授業についての意見を述べてもらう。</p> <p>第14回 韓国映画鑑賞および意見交換(前編)</p>		

	<p>韓国映画を鑑賞しながら、歴史的文化的背景についてのコメントを行う。映画鑑賞後、その感想や意見を述べてもらう。</p> <p>第15回 韓国映画鑑賞および意見交換（後編）</p> <p>韓国映画を鑑賞しながら、歴史的文化的背景についてのコメントを行う。映画鑑賞後、その感想や意見を述べてもらう。</p> <p>第16回 定期試験（筆記：ハングル文字）</p> <p>プリント配分の終業日の会話文についての紹介を行い、その会話文の発音の練習を行う。その会話文に基づいて過去形についての文法の説明を行う。講義で学んだことをもとに期末テストとしてハングル文字の母音と子音を書いてもらう。</p>
授業の概要	韓国語の語順は日本語とほとんど同じなので、初めての学習者でもわかりやすい。初めての学習者でもわかりやすく楽しめるように常に心がけ、ハングル文字の学習、易しい日常会話を中心に基本文法を扱い、講義を進めながら、韓国文化と歴史、韓国人とのコミュニケーションの取り方、DVDやインターネット等の視聴覚材料をもって韓国の歌やドラマ及び映画などを紹介する
予習	テキストを事前によく読み、新しい会話表現と基本文法の知識を再確認しておくこと。 各回、約1時間の事前学習を要する。
復習	授業の際に指示した課題に積極的に取り組み、講義の内容をより理解し、応用に努めること。 各回、約1時間の事後学習を要する。
テキスト	姜英淑外5人著『楽しく学ぶ ハングル1』白帝社
参考書	入佐信宏・文賢珠著『よくわかる 韓国語STEP1』白帝社 木内明著『基礎から学ぶ 韓国語講座 初級』国書刊行会
評価方法・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・試験40%（会話：自己紹介等のフリートーク10%、筆記：ハングル文字30%） ・毎回の課題提出（会話とハングルに関する学習）20% ・韓国文化についてのレポート提出（A4用紙1～2枚）&発表（3分程度）20% ・授業への参加度（遅刻や私語等減点）10% ・数回の小テスト10% <p>【D P 1～3との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に発音練習、レポート発表&意見交換などに積極的に参加すること。 ・授業内容の変更がある場合がある。
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後、教室で質問の受け付けをする。 （仮）・メールで質問に答える。（メールアドレスは、初回授業でお知らせします）
課題に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題及び授業内の小テストは評価後、授業内でその都度返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
又吉 パトリシア			

授業のテーマ及び到達目標	<p>① 初めてスペイン語を学ぶ学生がスペイン語の基礎文法を習得し、簡単な文と作文を書けるようになる。</p> <p>② 口頭で受け答えに慣れ、会話や自己紹介を発表ができるようになる。</p> <p>③ スペイン語圏の国々の事情及び文化などをに関する入門的な知識を学び、異文化理解を深めることができるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 !Bienvenidos al Mundo del espanol! スペイン語の世界へようこそ! ① オリエンテーション：授業の進め方、注意点と評価法の説明する。</p> <p>② QUIZで世界におけるスペイン語、スペイン語圏の国々、沖縄と中南米諸国との関係を学習する。</p> <p>第2回 El alfabeto y la pronunciacion del espanol スペイン語のアルファベットと発音 (Introduccion) ① スペイン語のアルファベットを覚える。(p.7) ② スペイン語の綴りを見て、正しく発音をとイントネーションを身につける。(p.7~9) ③ スペイン語のアクセントのルールを学ぶ。(p.9)</p> <p>第3回 Saludos y frases basicas あいさつと基本表現 ① 前回授業で学んだスペイン語の発音とイントネーションに注意しながら教室内と日常生活で使う基本表現を覚える。(p.6) ② ペアであいさつの会話練習する。(p.6)</p> <p>第4回 ①テスト1 ② ?De donde eres? 君はどこ出身ですか? (Leccion 1) ① テスト1(アルファベット、発音、アクセントと基本表現) ② 主格人称名詞を覚える (p.10) ③ 英語のBE動詞をと比べながらスペイン語のSER動詞の使い方と活用に慣れるようになる。(p.10)</p> <p>第5回 ④ 自己紹介を言う又相手を紹介する(SER動詞+名前、国と国籍、職業)(p.10~13) Un cafe y dos churros, por favor. コーヒーとチュエロス2本を下さい。(Leccion 2) ① スペイン語の名詞の性の区別を見分ける。(p.14) ② 名詞の複数形の作り方を学ぶ。(p.14) ③ 名詞の定冠詞と不定冠詞の作り方と使い方の違いを学ぶ。(p.14) ④ 数字0~15覚える。(p.74)</p> <p>第6回 ⑤ バル、レストラン、お店等での注文の会話練習する。 ?Donde esta la universidad? 大学はどこにありますか? (Leccion 2) ① ESTAR動詞の直接法現在形の活用を覚える。(p.14) ② 場所を表す単語、お店や公共施設などの語彙を覚える。(p.14と17) ③ 場所を尋ねたら説明するの会話練習する。(p.14と17)</p> <p>第7回 ?Que hay cerca de la universidad? 大学の近くに何がいますか? (Leccion 2) ① 存在を表す:HAY動詞を使って練習する。(p.17) ② ESTAR動詞(所在)とHAY動詞(存在)の使い分けを学ぶ。(p.14~17)</p> <p>第8回 ①テスト2 (Leccion 1 y 2) ② ?Que fecha es hoy? 今日の日付は何ですか? ① テスト2 (Leccion 1 y 2: p.10~17) ② 数字:16~100、曜日、月の語彙を覚える。(p.74) ③ 日付、誕生日、電話番号などを尋ねる会話練習する。</p> <p>第9回 !Que dulce y rico! 何と甘くておいしい! ① 性格や品質を表す形容詞を覚える。(p.18) ② 形容詞の位置と名詞の性数に合わせての変化の仕方を学ぶ。(p.18と20) ③ 簡単な感嘆文や物・人の特徴などを述べる表現の会話練習する。</p> <p>第10回 La habitacion es pequena pero esta ordenada. 部屋は小さいけど整頓されている。 ① SER動詞とESTARの活用方を復習する。(p.18) ② SER動詞(性質)とESTAR動詞(一時的な状態)の使い分けを学ぶ。(p.18~21)違いと</p>

	<p>使い分けを学ぶ。(p.18~21) ? Como es tu ciudad? あなたが住んでいる町はどんな街ですか? ① SER動詞、ESTAR動詞とHAY動詞の使い分けの再確認</p> <p>② 所有形容詞と名詞の性と数に合わせての変化を学ぶ。(p.72)</p> <p>③ 家族のに関する語彙を覚える。(プリント)</p> <p>④ 人や場所などの説明する会話をする。(p.21とプリント)</p> <p>第12回 ① テスト3 (Leccion 3) ② ? Que estudias en la universidad? 大学で何を勉強していますか? ① テスト3 (Leccion 3: SER, ESTARとHAY動詞、形容詞、所有形容詞) (p.18~21と72)</p> <p>② -ar動詞の直説法現在形の活用を覚える。(p.22と24)</p> <p>③ -ar動詞を使って相手に質問する練習する。(p.25)</p> <p>第13回 Mi familia vive en la Isla de Kumejima. 私の家族は久米島に住んでいます。 ① 前回の授業で学んだ-ar動詞の直説法現在形の活用を確認する。(p.22~25)</p> <p>② -er動詞と-ir動詞の直説法現在形の活用法覚える。(p.26~28)</p> <p>③ 前置詞を学び、短い文を書き練習する。(p.22とプリント)</p> <p>④ 日常生活や家族などについて尋ねる会話練習をする。(プリント)</p> <p>第14回 Estudiamos español en la universidad los miercoles. 毎週水曜日大学でスペイン語を勉強します。 ① -ar動詞、-er動詞と-ir動詞の直説法現在形の活用を確認する。(p.26~29)</p> <p>② 学んだ文法項目、語彙を使ってスペイン語で日常生活について作文を書く。</p> <p>第15回 ① Examen de conversacion 会話テスト ② Repaso 復習 ① 授業で学んだ文法項目、語彙などを使ってペアで会話する。</p> <p>② Lecciones 4と5の文法項目や語彙の復習練習する。(p.22~29)</p> <p>第16回 期末試験 (Lecciones 4 y 5) -ar動詞、-er動詞と-ir動詞の直説法現在形の活用。(p.22~29)</p>
授業の概要	世界のスペイン語を話す人口は現在およそ5億人以上といわれ、スペインだけでなくラテンアメリカの19の国々でも公用語として使用されている。特に沖縄県では多くの移民を中南米へ送り出したという歴史的な理由から、今日でも経済的、文化的な交流が活発に行われている状況にある。講義では教科書だけではなく、副教材として歌や映像などを使って、スペイン語圏の世界を紹介する。
予習	教科書やプリントなど事前によく読み、語彙と文法を再確認しておくこと。 各回、約2時間の事前学習すること。
復習	1. 授業で学んだ文法、語彙、表現などを暗記し、自然に言えるように努めること。 2. 動詞の活用を覚えるために、書いたり声に出したりして何度も練習しておく。 3. 各回、約2時間の事後学習すること。
テキスト	1. 『OKINAWA LATINA』スペイン語への架け橋 (沖縄県スペイン語教材開発研究会)(¥1,000)
参考書	1. 講師作成資料 2. インターネットでスペイン語に関するHP、画像、映像などを検索し、勉強の参考や復習にする。 2. 「スペイン語ミニ辞典」宮城・宮本編 白水社(¥2,800)、またはスペイン語電子辞書
評価方法・評価基準	最終評価は次の点の合計点とする: 1. 筆記テスト4回とQuiz(60点) 会話テスト(10点) 2. 宿題及び課題の提出 (20点) 3. 授業態度と参加 (10点) 注意: 授業総時間数の1/3 (5回)以上欠席した場合は単位を与えない。 【D P 1~3との関連】 .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」(キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー)をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。
履修上の注意	1. ノート、筆記用具、テキストと出席表を毎回持参すること。 2. 配布されたプリント、資料を大事にファイルすること。 3. 毎回QUIZまた小テストを実施するため宿題、予習、復習等をこなすこと。 4. 授業中はマナーを守ること(携帯電話・スマートフォン、タブレット等の使用禁止、遅刻しないこと、居眠りと飲食の禁止) 5. その他は最初の授業のオリエンテーションで説明する。
オフィスアワー	質問・相談などは、授業終了後にすること。 注意: メールでの対応は行いませんので、必ず授業終了後に受け付ける。
課題に対するフィードバック方法	授業内で行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
青野 和彦			

授業のテーマ及び到達目標	<p>本講義は聖書に基づいて、人間の生きる「道」を探求する学びである。これによって、キリスト教の死生観や「原罪」等の内面的テーマと共に、現代社会が直面する諸問題に対する聖書の観点を理解できるようになる。また、本学習を通して、キリスト教学(概論)で学んだ聖書の知識をより深めることで、現代社会に発信する聖書のメッセージも把握できるようになる。この学びを通して、本学の建学の精神の基盤となるキリスト教に関する知識をより多角的に習得すると共に、課題等の作成を通して、批判的思考力も養成もできる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義オリエンテーション ここでは、オリエンテーションとして、①キリスト教学を学ぶ意義と目的、②講義内容、③評価方法、④受講上の諸注意を説明する。これにより、講義の主旨の把握と同時に、学びへのモチベーションを高める。</p> <p>第2回 第一部 キリスト教倫理学の重要概念を学ぶ：生命倫理①「生」について ここでは、キリスト教の生命倫理の特色を、①キリスト教倫理学における「生」、②「生」に対する神学的考察(カール・バルトを中心に)、③聖書における「生」の意味、④生をめぐる現代の課題(ヒトクローン、ゲノム技術、人工妊娠中絶、AIの導入)、から解説する。この学びから、聖書の生命倫理の観点と共に現代社会において軽視されがちな生命の尊厳を認識する。</p> <p>第3回 生命倫理②「死」について ここでは、「死」に関する聖書の観点を、①聖書の死生観、②「死」をめぐる現代の課題(尊厳死と安楽死、自殺)から解説する。そこから、「死」というテーマを聖書の観点から学ぶと共に、現代人が抱える心の闇とそれへの対応の重要性を覚える。</p> <p>第4回 生命倫理③「3・11」について考える ここでは、「東日本大震災」の記録映像(DVD)を見ながら、①震災からの被災者の心理的回復のプロセス、②ある大学生の卒論が問かける「グレーゾーンにある死」、③聖書を参考に被災者に対して可能な支援、について解説する。そこから、自然災害がもたらす物的・心理的被害の大きさとともに、生命の尊厳を覚えつつ、被災者を支援することの重要性を覚える。</p> <p>第5回 キリスト教における「愛」 ここでは、①ギリシャ世界における四種類の「愛」、主に「エロース」と「アガペー」の意味、②聖書におけるこれらの愛の関連性、③夏目漱石の『こころ』に描かれるエロースの酷さ、④聖書が示す「アガペー」の性質、を解説する。そこから、「エロース」に喜びまた苦しむ人間の本性(human nature)を知ると同時に、その苦悩を救う「アガペー」の重要性を学ぶ。</p> <p>第6回 「幸福」について ここでは、①四段階の幸福(快楽、幸せ、歓喜、祝福)の意味、②日本人の幸福感、③聖書の「二つの食事」にみられる「幸福」(「マルコによる福音書」6:14~44)の内容、について解説する。さらに、苦難の中にあっても幸福を創出できることを遠藤周作の小説等を題材に紹介する。そこから、人生において苦難を克服させる精神的力の存在を認識する。</p> <p>第7回 「罪」について ここでは、愛と並んでキリスト教人間学(倫理学)の重要テーマである「罪」について、①「罪」に対するキリスト教文化と日本文化の考えの違い、②聖書の示す「原罪」の意味と起原、その赦し、から解説する。そこから、聖書が描く「原罪」の意味とそれを赦すキリストの十字架での贖(あがな)いの効力のみならず、キリスト教文化圏に暮らす人々の神観や人間観も学ぶ。</p> <p>第8回 第二部現代社会の諸問題の考察：男性と女性—キリスト教と性的少数者— ここでは、主に性的少数者に対するキリスト教というテーマを扱い、それを①性的少数者に対する旧・新約聖書の教え、②性的少数者に対するキリスト教会の解釈の違いから解説する。そこから、キリスト教、特にプロテスタント教会では、本テーマをめぐる、様々な聖書の解釈の違いから見解の相違と同時に、性的少数者の人権を尊重しつつ、テーマの学びを深める。</p> <p>第9回 結婚と家庭 ここでは、①聖書の結婚観、②キリスト教の結婚式の中心としての「誓約」、③聖書の家庭観、④家庭をめぐる現代の諸問題(「家庭内暴力」、「ネグレクト」)から解説する。そこから、結婚と家庭に関するキリスト教的な観点のみならず、人生における結婚という決断と家庭生活の重要性を認識する。</p> <p>第10回 労働と余暇 ここでは、①聖書の労働観(「創世記」、イエス・キリスト、パウロ)、②プロテスタント宗教改革者達(ルター、カルヴァン)の職業観、③聖書における「余暇」の意味を解説する。そこから、人間にとっての労働に重要性と同時に余暇の宗教的意味を学ぶ。関連して、人間が労働することの意味、「天職」(Beruf)を見つけることの意義や就労上の待遇格差等の労働をめぐる現代の諸問題の原因も考察する。</p> <p>第11回 社会と福祉 ここでは、「社会と福祉」というテーマをキリスト教的観点からアプローチする。つまり、①旧約聖書に見られる社会的弱者(重病人、罪人、障がい者等)、②新約聖書に登場する障がい者に対するイエス・キリストの関わり、③その関わりから見えてくるイエスのメッセージを解説する。そこから、キリスト教社会福祉思想を理解すると共に、少子高齢化が進む現代にあって障がい者や高齢者に対する対応策も考察する。</p> <p>第12回 国家と政治 ここでは、①聖書の国家観(特にイエスとパウロ)、②国家に対するキリスト教の関わり(ローマ帝国期の初代教会の対応、ドイツ第三帝国期のボンフェッファーの抵抗、日本の「訓令第12号」(1899年)に対するプロテスタント教会の対応、内村鑑三の「愛国心」思想)から解説する。そこから、「日米同盟」、「辺野古新基地移設」、憲法改正案等の政策についても検証する。</p>

	<p>第13回 戦争と平和①聖書の平和思想 ここでは、①旧約聖書の平和思想（預言者を中心に）、②新約聖書の平和思想（イエスを中心に）から、テーマを解説する。また、ジョン・ペイントンの平和思想も紹介する。そこから、今後の国際社会において、武力手段による平和維持・戦争抑止力の限界性やイエスに示される非暴力による平和の構築の意義を学ぶ。</p> <p>第14回 戦争と平和②キリスト教と核兵器 ここでは、前回の講義内容を参考にしつつ、①戦争の性質と原因、②ヒロシマ・ナガサキの原爆投下が現代社会に問いかけるメッセージ、③西洋史の中で形成された「正戦思想」を解説する。その際、原爆投下した「エノラ・ゲイ号」の搭乗員や広島市の被爆者の証言も紹介する。そこから、原爆投下の思想的背景となる「正戦思想」や「黄禍論」を学ぶと共に、現代世界において核兵器を製造・保有することのリスクを認識する。</p> <p>第15回 イスラム教とキリスト—もうひとつの世界宗教との関わり— ここでは、①「イスラム」の意味、②イスラム教の中心的教義、③キリスト教との共通点と相違点、④イスラム教徒の日常生活（礼拝、習慣等）を解説する。そこから、キリスト教に次いで信者数の多いイスラム教の基礎知識を正しく学び、国際社会において双方の宗教の共存の形態について模索する。このような他宗教の学びは、キリスト教をより多角的に学ぶ上で意義があり、平和構築の可能性を広げるものと考えられる。</p>
授業の概要	「キリスト教人間学」とは、聖書、特に新約聖書に示されるイエス・キリストの教え（隣人愛とキリストの十字架での身代わりの死）を土台にしつつ、人間にとってふさわしい生き方を考察する学問である。それはまた、キリスト教の学問領域の中で「組織神学」に位置づけられ、「キリスト教倫理学」(Christian ethics)とも呼ばれる（ただし、テーマは聖書学、教会史、実践神学の領域にも及ぶ）。本講義では、キリスト教人間学（倫理）の主要な領域テーマについて、①各テーマに対する聖書の理解、②聖書のメッセージとテーマとの関連性を解説し、現代世界が抱える様々な問題解決の糸口を探っていく。なお、本講義の第一部（第二回～第7回）では、キリスト教倫理学上の重要概念を学び、第二部（第8回～第15回）では、その学びを土台に、現代社会の様々な問題を考察していく（※詳細は、授業計画を参照）。
予習	教科書（テーマの該当ページ）、資料（事前配布）を読み、次回の講義で学習する内容を把握しておく。箇所は毎回指定する。
復習	テーマに関する簡潔な「復習プリント」（レビュー・シート）を次回の講義時に提出する。なお、その内容はテーマに関する問い（1問）であり、学生からの質問もそこに記入することができる。この復習により、学生はテーマをより確実に把握することができよう。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本聖書協会編『新共同訳聖書』、日本聖書協会、1987年。 ・原 栄作『現代に生きる人間像』（聖書と人間3）、新教出版、1992年。 ※テーマに関連する資料も講義時に配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・小田島嘉久『キリスト教倫理入門』、ヨルダン社出版部、1988年。 ・神田健次、関根清三、金子啓一、栗林輝夫編『講座 現代キリスト教倫理』（1-4巻）、日本キリスト教団出版局、1999年。
評価方法・評価基準	<p>【平常点】40%：①「復習プリント」、②課題、③授業参加度。 ※「月曜礼拝」出席も本学の建学の精神、聖書およびキリスト教の幅広い理解の向上の観点から、評価に反映させる。</p> <p>【期末試験（レポート）】60% ・期末レポートは講義で扱ったテーマを1つ選択し、①テーマに関する聖書の観点と②それに対する自分の意見を作成する内容となる。なお、テーマの選択方法やレポートの書式の詳細については講義時に説明する。これらの作業を通して、本学の建学精神の礎となるキリスト教に関するより深い教養と批判的思考力を養うことを目指す。</p> <p>【D P 1～3との関連】 .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、『聖書』（新共同訳版）も必ず持参すること。 ・「月曜礼拝」出席を奨励する。 ・出席（毎回とる）。※遅刻・欠席に注意。 ・課題の提出および学生として積極的姿勢・相応しいマナーを心がけること。 ・「キリスト教I」、「キリスト教概論」を履修しておくことが望ましい。 ・講義やキリスト教に関する質問があれば、講義時や「オフィス・アワー」を利用するとよい。
オフィスアワー	毎週木曜日 2限目 研究室（西研2-2）
課題に対するフィードバック方法	・提出された「復習プリント」および課題は、担当教員が点検後、講義時に返却する。また、学んだ内容を確実に理解してもらうために、担当教員が改善点を返却時に講評する。

講義科目名称：ボランティア

授業コード：

英文科目名称：Volunteering

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	1単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
上原 明子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 30時間をボランティアを通し、生涯ボランティアへのきっかけをつくる。スクール・モットー「仕えるために」を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 社会に貢献できる自分を認識し、行動を通じて、自分と社会との関わりを学ぶことができる。</p>
授業計画	<p>30時間のボランティア活動を各自で行う。 *学期、学年、種別を問わない。</p>
授業の概要	<p>多文化共生時代を生きる「私」は、今、社会に対して何ができるのか。 真のボランティア精神育成のため、自分にできる社会奉仕を探し、実践することで、自分をみつめ、学びのきっかけを得ることを目的とする。</p>
予習	<p>ボランティアの意義に関してリサーチし、知識を得る。ボランティア活動の情報収集を行う。</p>
復習	<p>ボランティアを通して得た知見を分析し、これからの生活に活かす。</p>
テキスト	<p>オーガナイザーより個別に指示。</p>
参考書	<p>オーガナイザーより個別に指示。</p>
評価方法・評価基準	<p>レポート100% 在学中に行った30時間分のボランティア活動の活動証明と、レポートを添えて、認定申請用紙と合わせて、オーガナイザーに提出。</p> <p>【DP 1～3との関連】 ○ 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 .. 2 専門領域の学びを支える「コア科目」(キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー)をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。</p>
履修上の注意	<p>①ボランティア先への交渉等は、各自の責任において行うものとする。 ②公共性のあるボランティア活動を対象とする。 認定方法：所定の様式に添って、報告書とレポートを提出する。</p>
オフィスアワー	<p>毎週水曜日(11:30～12:30) 研究室。</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>各自のメールアドレスに返還。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
古澤健太郎・友利廣・金永秀・青野和彦			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 自校史と共にキリスト教思想を学びながら、平和を実現するために何ができるかを考える。</p> <p>【到達目標】 本学の歴史・沿革を理解し、これを説明できるようになる。 本学の建学の精神を理解し、キリスト教の平和学についての基本的な知識を獲得する。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨンとガイダンス 授業のテーマや目標、概要について説明する。また、進行方法や評価基準についても説明する。</p> <p>第2回 学院史から建学の精神を学ぶ意義 一事例を通して（学長：友利廣） 沖縄戦後史を直視しそこに潜む固有の課題を掴み何を為すべきかを考える機会とする。</p> <p>第3回 「仲里朝章」とその時代（金永秀） 本学院の創立者、仲里朝章が本学建学に至った個人的、時代的経験のなかで、いかなる信仰と反省を持ったのかを学ぶ。</p> <p>第4回 沖縄キリスト教学院創立前の沖縄キリスト教の状況とキリスト教学院草創期の教育内容（青野和彦） 本学院が創設された戦後の沖縄の歴史的な文脈と本学院の教育内容（カリキュラム等、担当教員等）を紹介し、本学院がそのように教育の中で建学の精神を学生達に伝えていたのかを概観する。その際、『創立60周年史』（2009年）等の文献、史料、証言を用いる。</p> <p>第5回 キリスト教史における平和と戦争 キリスト教の歴史を概観しながら、戦争と平和への関わりについて学ぶ。戦争とキリスト教の関わり及び平和とキリスト教の関わりについて、歴史上の変遷を辿りながら今後の授業に必要な基礎知識を得る。</p> <p>第6回 「正義」の歴史(1) - 古代～中世 そもそも「正義」とはなにか、どのように創造され、どのように用いられてきたのかについて学ぶ。第6回ではとりわけ古代社会から中世社会における「正義」を概観する。キリスト教における「正義」に主な焦点を当てるが、より広く様々な文化に目を向ける。</p> <p>第7回 「正義」の歴史(2) - 近代～現代 第6回の講義に引き続き、世界の「正義」について学ぶ。とりわけ2度の大戦を経て正義論は大きく変革した。今も私達が接する平和論の礎ともなった「正義」について、近代から現代を中心としてその議論の変遷を考える。</p> <p>第8回 平和研究に関する知識と議論 これまでの講義内容を踏まえ、一人ひとりが「平和」について考える。思想史の中の平和論に焦点を当て、その変遷と今日の議論について学んだ後、受講者は各自の考えをまとめなければならない。時間をとってディスカッションを行うが、論文形式によるレポートの提出も求められる。</p> <p>第9回 聖書における平和と暴力(1) - 旧約聖書 イエス・キリストの行動と思想に一人ひとりが迫るという目的のため、第9回、及び第10回の講義では聖書に焦点を当てる。先に取り扱う「旧約聖書」は、イエス・キリストとその属した社会が規範とした聖書である。旧約聖書における平和と暴力について学ぶ。</p> <p>第10回 聖書における平和と暴力(2) - 新約聖書 イエスの行動、弟子たちの活動、初期のイエス支持者による書簡などから成る「新約聖書」を通じて、そこに見られる平和の特徴と、聖書読者が見過ごしてはならない暴力の有り様について学ぶ。</p> <p>第11回 戦争責任と私たち 戦争に直接関わったことのないように思える私達に、戦争責任はないのか。実際の「戦争責任」についての議論を学び、一人ひとりが私達の戦争責任について考える。時間をとってディスカッションを行うが、レポートの提出も求められる。ディスカッションやレポートの中では、実際の自分の意見とは異なる立場での考察も要する。</p> <p>第12回 宗教と暴力 宗教間の紛争や弾圧は、今この時にも人々を苦しめ続けている。過去から現在の様々な宗教間対立や暴力を学び、「平和」にとって「宗教」はいかなる存在であるのかを考える。時間をとってディスカッションを行うが、他にレポートの提出も求められる。</p> <p>第13回 沖縄の平和、世界の平和 これまでの講義で「平和」について各々の考えを培ってきたが、第13回では、具体的に、私達の住むこの沖縄で平和を実現するにはどうすればよいのかということについて議論する。また、「ピースメーカーの養成」という本学の理念に即し、それが世界の平和とどう関連していくのかについても議論する。議論の中では、実際の自分の意見とは異なる立場での考察も求められる。</p> <p>第14回 平和思想の潮流と私たち 前回の議論も踏まえ、今日広まりつつある「平和」についての考え方を学ぶ。今回の講義では、平和に関する最新の論文や議論、潮流を事前に調査してることが求められる。</p> <p>第15回 イエス・キリストの生き方、考え方 これまでの授業をもとに、今日における「イエス・キリストの平和」とはなにかについて、一人ひとりが考える。講義形式で行うが、自由な意見の発表が求められる。</p> <p>第16回 定期試験 収集した知識をもとに、提示されたテーマに沿って自分の考えをまとめる。テーマについては当</p>

	日発表する。論文としての体裁が整えられていることが望ましい。
授業の概要	<p>(1)内容 聖書からイエス・キリストの生き方、考え方を学び、キリスト教の平和思想について考える。沖縄の歴史をふり返りながら現状を分析し、「平和」とはなにか、それを実現するためにはどうすればよいのか、一人ひとりが自分の力で考え、議論を重ねる。また、他者と共感することのできる「共生社会」を目ざすための方法を考える。それを阻害する身体的・精神的暴力の問題についても学ぶ。</p> <p>(2)方法 講義を基本とするが、ディスカッションなどを随時取り入れる。その場合には発言など積極的な参加を要する。 ミニレポート：講義に参加し、講義内容に関するミニレポートを提出する 平和に関するレポート：学期内に平和についてのレポートを提出する</p>
予習	次回講義のために予習すべきことをそのつど告知する。 各回、約2時間の事前学習を要する。
復習	その日の講義内容をまとめる。 各回、約2時間の事後学習を要する。
テキスト	『聖書』
参考書	講義中に提示された質問事項などを鑑みそのつど紹介する。
評価方法・評価基準	<p>期期末試験：50% 収集した知識（情報）をもとに、提示されたテーマに沿って自分の考えをまとめる。 レポート：30% 1) 講義内容に関するミニレポートを提出する。 2) 平和についてのレポート（論文形式）を提出する。 授業態度：20% 質問、発表などで積極的に講義に参加する。</p> <p>【D P 1～3との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 ○ 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	古澤：メール、または授業終了後に質問を受付けます。（メールアドレスは、初回授業でお知らせします） 友利：毎週**曜日 **限目 事前にメール予約してください。 メールアドレス：htomori@ocjc.ac.jp 金：毎週**曜日 **限目 事前にメール予約してください。 メールアドレス：kim@ocjc.ac.jp 青野：毎週**曜日 **限目 研究室（西研2-2）
課題に対するフィードバック方法	申し出のあった希望者については、課題等の提出物をメールボックスへ返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(1-1)	選択必修科目
担当教員			
酒井 ひろ子			

授業のテーマ及び到達目標	聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度や権利擁護が理解でき、対人援助の一つとして認識することが出来る。聴覚障害者の社会的状況に関心を持ち、チームで問題解決に取り組める。手書きノートテイクの基本的な書き方を習得できる。		
授業計画	第1回	オリエンテーション／講義概要説明をして学生からの質問を受ける。 聴覚障害の基礎知識（聞こえの仕組みと聴覚障害・聴覚補償） 聴覚障害者の医学的・機能的障害を知る。聴覚障害により低下した聞こえを、補聴器や人工内耳で増幅して聞こえを補う聴覚補償と聞こえ方をもとに、補聴器や人工内耳の効果が得にくい環境を学ぶ。	
	第2回	聴覚障害の基礎知識（聴覚障害者のコミュニケーション） 聴覚障害者のコミュニケーションは、聴覚活用と視覚活用がある。この回では聴覚活用のコミュニケーションを紹介する。補聴器、人工内耳、補聴援助システムの活用方法や、ヒヤリンググループ体験をする。	
	第3回	聴覚障害の基礎知識（聴覚障害者のコミュニケーション） 視覚活用のコミュニケーション方法を紹介する。手話、指文字、読話、筆談、要約筆記の説明と、実習を行う。トータルコミュニケーションの考え方や遠隔コミュニケーションも紹介する。	
	第4回	聴覚障害の基礎知識（中途失聴・難聴者の現状と課題） 身体障害者福祉法の問題点や、聴覚障害者のコミュニケーション手段の違いからくる障害の様相から、難聴という障害、中途失聴という障害それぞれの特徴を学ぶ。障害者総合支援法の中の中途失聴・難聴者の支援サービスの現状を紹介する。	
	第5回	要約筆記の基礎知識（全国の難聴者運動と要約筆記の歴史） 聴覚障害者のコミュニケーション支援の現状を学び、要約筆記者の役割を知る。難聴者運動の歴史では、全国の難聴者運動の始まりから運動内容の紹介をする。要約筆記の歴史では中途失聴・難聴者運動の始まりから要約筆記者養成に至るまでを紹介する。	
	第6回	要約筆記の基礎知識（沖縄県の難聴者運動と要約筆記の歴史・大学ノートテイク） 沖縄県内のろうあ運動から生まれた県内の難聴者運動の歴史や要約筆記の歴史を紹介する。また聴覚障害学生の要望から学生による要約筆記の大学ノートテイクが始まり、県内の大学の取り組みも紹介する。	
	第7回	要約筆記の基礎知識（要約筆事業の位置づけ・通訳としての要約筆記） 要約筆記奉仕員養成派遣事業の開始から第二種社会福祉事業になり法定化した。その意味と要約筆事業の目指すものを考える。聴覚障害者にとっての要約筆記は、コミュニケーションを成立させる通訳だという視点が明確に出された。	
	第8回	要約筆記の基礎知識（要約筆記の目的・要約筆記の三原則 要約筆記の表記） コミュニケーション支援としての要約筆記の目的を確認する。音声情報を文字で伝える通訳をコミュニケーションの成立要件から考える。発信から受信までの中で生じる概念の再構築がその場で役立つ通訳の為に重要な脳内活動だと学ぶ。 利用目的の違い、利用方法の違いを通訳作業と他の文字情報との違いから考える。	
	第9回	要約筆記の基礎知識（要約筆記の表記） 要約筆記の方法では、パソコン要約筆記、手書き要約筆記があり、利用者の数により機材や方法も変わる。要約筆記の三原則の「速く、正しく、読みやすく」の意味するものの表記のルールを、ノートテイク実習を通して学ぶ。	
	第10回	話しことばの基礎知識（話しことばと書きことば） 要約筆記の対象は話しことばであり、話しことばの特徴を知ることが技術獲得の第1歩となる。音声情報をどのような形で提供すれば聴覚障害者にとって十分な情報保障になるかを関係者が考え、場や内容に合わせた情報提供をすることが大切。 通訳行為だけが聴覚障害者に音声情報を伝える方法ではないことを学ぶ。	
	第11回	話しことばの基礎知識（話しことばの特徴と活用） 記憶の仕組みに沿った話に追い付くためのテクニックを紹介する。要約以前の技術として要約技術があり、そぎ落とし、省略、置換、文末処理がある。さらにその場の参加者に共有している情報を活用する方法も実習を通して学ぶ。	
	第12回	社会福祉の基礎知識（聴覚障害者の福祉施策の現状） 障害者総合支援法のなかの自立支援給付と地域生活支援事業の仕組みを紹介し、地域格差と課題を考える。障がい者制度改革推進会議と法整備の状況を紹介する。	
	第13回	伝達の学習 要約の学習（コミュニケーションの基礎理論 要約の定義と意味） コミュニケーションの成立と意味の伝達を、コミュニケーションモデルを使って考える。言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション、コミュニケーションの特徴、目的をもとに情報保障の基礎理論を紹介する。要約筆記は文章の要約の定義と要約の型を参考にしている。そのうえで情報伝達における要約を考える。	
	第14回	ノートテイク（ノートテイクの方法） 手書きノートテイクの用具と書き方、座席と交代、待機者の考え方、留意点を、実習を通して学ぶ。また、目的に応じた書き方や場面対応を学び、利用者の主体性を尊重する対応が理解できる。	
	第15回	ノートテイク（手書きノートテイクの技術） 音声情報を聞きながらノートテイク実習をする。表記、要約技術、共有情報の活用、要約、対応を再確認する。10分ほどの音声テープを聞きながら2人一組で行い、書いたものの検証をする。	

	<p>第16回 期末試験</p> <p>試験の進め方の説明を10分ほど行い、それから筆記試験を行う。 筆記試験は30分で、内容は全15回の中からとする。 解答用紙のみ回収し、実技試験を行う。 実技試験は10分間程の音声テープを聞きながらノートテイクする。</p>
授業の概要	この授業では、音声中心の社会での聴覚障害者の現状と課題を理解するために、講義・DVD・実習を組み合わせます。 手書き大学ノートテイクの基礎知識を習得すると共に難聴者、中途失聴者に対する対応の方法を学びます。
予習	テキストを事前に読み、講義の内容を確認しておく。
復習	レジュメをもとに、より理解し、習得する
テキスト	厚生労働省カリキュラム準拠 要約筆記者養成テキスト（上）（下） 「要約筆記者養成テキスト」作成委員会
参考書	特になし
評価方法・評価基準	<p>試験30%、レポート30%、授業態度20%、演習20%、1/3以上の欠席は不可。</p> <p>【DP 1～3との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。
履修上の注意	ペン、白紙は各自で毎回用意する。（1回目に説明）
オフィスアワー	授業終了後、質問用紙に記入し提出したら、次回の授業の初めに答えます。
課題に対するフィードバック方法	レポートは採点后、講義内で返却する。 実習で書いたものは検証をしてから講義内で返却する。

講義科目名称：ヘルスプランニング

授業コード：

英文科目名称：Health planning

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
音野 太志			

授業のテーマ及び到達目標	健康に関する心身の諸問題についてその背景と解決策について理解することができる。 現在の自分のライフスタイルを健康の観点から認識し、今後のよりよいライフスタイルを形成していくための知識と態度を養うことができる。
授業計画	<p>第1回 コースオリエンテーション：健康とは？ 講義の概要と進め方、評価方法の説明を行い、講義の中でキーワードとなる「健康」について、WHOの定義と現代社会の状況を照らし合わせながら講義を行う。 グループワークを行う為のグループ分けを行う。</p> <p>第2回 テーマの決定 個人ならびに各グループから、現代社会における健康問題をキーワードで複数挙げ、グループで扱うテーマを決定する。 グループワークとしては、選択したキーワードを基に何を詳しく調べていくかの話し合いを行う。</p> <p>第3回 グループワーク① 選択したテーマに関して、グループで調査を行う。 同時に、発表資料の作成を行う。</p> <p>第4回 グループワーク② グループでの調査を継続し、発表資料の仕上げを行う。</p> <p>第5回 グループワーク③ 発表資料の仕上げを行い、発表の時の役割分担と発表用原稿の作成を行う。</p> <p>第6回 発表 グループ毎に発表を行う。 他グループの発表に対して、評価を行う。（自グループに対しても、振り返りとして自己評価を行う） 発表した内容に関して、補足としての講義を行う。</p> <p>第7回 発表 グループ毎に発表を行う。 他グループの発表に対して、評価を行う。（自グループに対しても、振り返りとして自己評価を行う） 発表した内容に関して、補足としての講義を行う。</p> <p>第8回 発表：結果の発表 発表に対しての総評を行い、補足の講義を行う。</p> <p>第9回 後半：テーマの決定 各グループで後半のテーマに関する話し合いを行う。 後半は、前半で調査した健康問題に対して、改善するための取り組みを考案する。</p> <p>第10回 グループワーク④ 発表内容に関する話し合いを行い、発表用の資料を作成する。</p> <p>第11回 グループワーク⑤ 発表用の資料を作成する。 自分達が決めた取り組みが、何故健康問題に対して有効なのかの根拠に関する調査を行う。</p> <p>第12回 グループワーク⑥ 発表用資料の仕上げを行い、発表方法の決定する。</p> <p>第13回 発表 グループ毎に発表を行う。 他グループの発表に対して、評価を行う。（自グループに対しても、振り返りとして自己評価を行う） 発表した内容に関して、補足としての講義を行う。</p> <p>第14回 発表 グループ毎に発表を行う。 他グループの発表に対して、評価を行う。（自グループに対しても、振り返りとして自己評価を行う） 発表した内容に関して、補足としての講義を行う。</p> <p>第15回 発表：結果の発表 発表に対しての総評を行い、補足の講義を行う。</p> <p>第16回 試験 各グループが発表した内容から問題を作成し、試験を行う。 講義を通じた感想をレポートとして提出する。</p>
授業の概要	授業は、アクティブラーニングの手法を用いて進めていく。 前半は、グループ毎にテーマを決め、現代の健康問題に関し調査し、模擬授業として発表を行い、各テーマに対するの学びを深める。 後半は、問題への解決方法を探り、同学年へ向けた、健康問題改善の為の取り組みをグループ毎に考案し、提案を行う。

予習	それぞれのテーマに沿った健康問題に関する情報を収集して授業に臨む。
復習	講義で感じた疑問や発見を振り返り、自身の生活と照らし合わせる。
テキスト	テキストは使用しない。講義ごとに資料を配布する。
参考書	九州大学健康科学センター編 『健康と運動の科学』 大修館書店
評価方法・評価基準	レポート40点（中間20点、期末20点）、授業への参加度50点、試験10点。 【D P 1～3との関連】 .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。
履修上の注意	予習、復習を行い、講義に参加すること。
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける。
課題に対するフィードバック方法	発表に対して、発表後に補足の講義を行う。

講義科目名称：科学リテラシー

授業コード：

英文科目名称：Science Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(1-1)	選択必修科目
担当教員			
内間 清晴			

授業のテーマ及び到達目標	自然現象を定性的に理解し、科学的な物の考え方・見方ができる。（科学的事象を科学的根拠を用いて説明できる。） 科学リテラシー（問題解決能力）を修得する。
授業計画	<p>第1回 日本の科学リテラシーについて ①日本の科学リテラシーの状況をTIMSSの結果を用いて解説する。 ②物づくりを通して科学を学ぶ意義について確認する。</p> <p>第2回 大気圧、風（台風） 大気圧とは何か、風が吹く仕組み、台風のメカニズムについて理解する。</p> <p>第3回 光、光の種類、光の分光について 光とは何か、光の種類、光の分光について学び光の万華鏡を作成する。</p> <p>第4回 光回折、屈折、干渉について（虹について） 光の回折、屈折、干渉について学び、虹のメカニズムについて理解する。</p> <p>第5回 鏡と光について① 鏡について学び、鏡を用いてビーズ万華鏡を作成する。</p> <p>第6回 鏡と光について② 立体万華鏡の作成</p> <p>第7回 光の偏光について、光の屈折率 ①光の偏向について学び、サングラスの仕組みを理解する。 ②偏光板を用いたボックスを作成する。</p> <p>第8回 波、地震について 縦波および横波について学び地震のメカニズムについて理解する。</p> <p>第9回 簡易コンデンサーの作成 静電気 ①静電気の発生、雷のメカニズムについて理解する。 ②コンデンサーについて学び簡易コンデンサーを作成する。</p> <p>第10回 磁石について ①磁石について基本的な知識を学び、地球磁場を理解する。 ②磁石の種類（フェライト磁石、アルニコ磁石、ネオジウム磁石） ③磁力線について学ぶ ④磁性流体について学ぶ</p> <p>第11回 電気について ①電気ができるメカニズムについて理解する。 火力発電（化石燃料）、原子力発電について理解する。 ②電流と抵抗について学び、ジュール熱、ヒーターの原理について理解する。 ③電流とジュール熱に関する理解を深めるため電気パンを作成する。</p> <p>第12回 地球温暖化とクリーンエネルギーについて ①地球温暖化のメカニズムについて理解する ②クリーンエネルギーとして、太陽光発電、風力発電および温度差発電等に関して実験を通して理解を深める。</p> <p>第13回 課題学習1、学生各自が設定したテーマ（実験）の原理のまとめ 学生各自が設定したテーマ（実験）の原理のまとめ。</p> <p>第14回 課題学習2、学生各自が設定したテーマ（実験）の実験装置の作成 学生各自が設定したテーマの実験装置作成。</p> <p>第15回 課題学習3、学生各自が設定したテーマ（実験）の実験装置の発表 作成した実験装置に関する発表。</p>
授業の概要	① 近年理科嫌いの生徒・学生が増えている。その理由に、これまでの学校教育が計算主導型、受験対策型であったことが考えられる。今講義では、難しい数式を利用せずに、物作りを通して、自然現象を理解する。 ☆特に保育科の学生に対しては、子ども達が自然現象に感動し、自然事象にたいする探求力・想像力を育成できる保育者の養成を目的とする。 ② 毎回、講義で理解したことを提出する。
予習	毎回の講義内容をの復習し、講義中に指示された課題を行う事によってより理解を深め、次回の講義に臨むこと。
復習	毎回の講義内容をの復習し、講義中に指示された課題を行う事によってより理解を深め、次回の講義に臨むこと。
テキスト	教科書は使用しません。毎時間プリントを配布いたします。
参考書	必要に応じて講義内で紹介致します。

<p>評価方法・評価基準</p>	<p>① 課題・レポート90点 ② 授業への参加意欲10点</p> <p>【D P 1～3との関連】</p> <p>.. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。</p> <p>.. 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。</p> <p>○ 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>作成した実験道具は持ち帰ってもらいます。 そのため教材費として各自2,000円を納めてもらいます。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週金曜日14:40～16:10 内間研究室</p>
<p>課題に対するフィードバック方法</p>	<p>テーマ毎の理解度を確認する意味で、講義で理解した事や感想等を提出してもらい、評価して返却する。また、適時、そのフィードバックを行う。</p>

講義科目名称：はじめての日本語教育

授業コード：

英文科目名称：Japanese language teaching Introduction

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
川野 さちよ			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：日常生活と日本語教育の関わりを知り、日本語教育について深く考えることができる</p> <p>思考判断：多角的な視点からことばを捉えなおし、新たな発見ができる</p> <p>関心意欲：ことばを通じた自己理解、他者理解を経て、相互理解について考えることができる</p> <p>態度：他者との対話を重ね、新しいものを創造することができる</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション/日本語教育とは 私たちの日常生活と日本語教育の関わりを知り、だれが、どこで、なにを、どうやって、どんな目的で日本語教育が行われているのかについて学ぶ。</p> <p>第2回 日本語教育の歴史/日本と沖縄における日本語教育の現状 日本語教育史年表を通して、日本語教育の過去の歩みを学ぶ。 日本全体と沖縄における日本語教育の現状や課題について知り、日本語教育に関する自らの問いをたて、考える。</p> <p>第3回 言語としての日本語（第1章） 母語（第一言語）とは異なる視点から、日本語を改めて学びなおす。</p> <p>第4回 日本語の音声（第2章） 第二言語との比較を通し、日本語の音の特徴や音声の指導方法について学ぶ。</p> <p>第5回 日本語の文字・表記（第4章） 第二言語（あるいは第三言語等）と比較しながら、日本語特有の文字・書き方について、日本語学習者の視点から学ぶ。</p> <p>第6回 社会言語学（1）（第6章） 自己体験を通して、社会とことばのつながりについて考え、自らの体験・思考・問いを言語化していく。</p> <p>第7回 社会言語学（2）（第6章） 前回の講義を踏まえ、履修生間で各々の体験・思考・問いを共有し、共に考える。</p> <p>第8回 語彙（第5章） 日本語の語彙の種類や構成等、日本語の語彙が有する特性について学ぶ。</p> <p>第9回 日本語の文法（1）（第3章） 日本語教育において重要な日本語の文法の特徴や教え方を学ぶ。 グループプロジェクトワークの担当テーマ・方法等を話し合い、決定する。</p> <p>第10回 グループプロジェクトワークの準備 各グループメンバー間で協力し合い、発表の準備を進める。</p> <p>第11回 日本語の文法（2）（第3章）グループプロジェクトワークの発表発表①</p> <p>第12回 日本語の文法（3）（第3章）グループプロジェクトワークの発表発表②</p> <p>第13回 日本語の文法（4）（第3章）グループワークプロジェクトのまとめ・振り返り 2回の発表を振り返り、各々の学びや新たな問いをまとめ、全体で共有する。</p> <p>第14回 第二言語習得（第8章）/個人レポート準備・話し合い 自らの第二言語習得の経験を振り返り、各自の興味関心・問題提起を掘り起こし、まとめる。 過去14回で学んだ日本語教育のテーマと各自の興味関心・問題提起を関連させた個人レポートのテーマを決定し、作成を進める。</p> <p>第15回 授業内筆記試験（タスクシートより）/個人レポート提出/総括 授業のまとめと全体で授業での学びを共有する。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教育を通して、自らの言語活動を振り返る。 日本語（ことば）を教える立場に立ち、日本語（ことば）を多角的な視点から捉えなおすことで、新たな学びを得る。
予習	<ul style="list-style-type: none"> シラバスを確認し、授業で扱う文献を読んでおくこと。 講義で学んだことをきっかけとし、日常生活と日本語教育の関連性について常にアンテナをはっておくこと。
復習	<ul style="list-style-type: none"> 講義内で指示したタスクにとりくむこと。 講義で学んだことをきっかけとし、日常生活と日本語教育の関連性について常にアンテナをはっておくこと。
テキスト	『新・はじめての日本語教育・1 [日本語教育の基礎知識]』高見澤孟（アスク講談社）
参考書	講義にて紹介
評価方法・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> グループワークプロジェクト20%、講義内タスク提出20%、定期試験20%、個人レポート20%、態度20% <p>課題1 グループワークプロジェクト</p>

	<p>課題2 個人レポート 課題3 講義内記述テスト（講義内タスクより）</p> <p>【D P 1～3との関連】 .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に何かを伝えたい時、相手にわかるように、ことばで表現するにはどうしたらよいか、講義内でも講義外でも考え続けよう。
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・講義終了後、教室で質問を受け付ける。
課題に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題やプリントは、評価し、返却する。

講義科目名称：文系学生のための基礎数学演習 I

授業コード：

英文科目名称：Basic Math. Exercise for Liberal Arts Students I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(1-1)	選択必修科目
担当教員			
内間 清晴			

授業のテーマ及び到達目標	<p>① 数学の基礎・基本を十分に理解し、基本的な数式の計算ができ、数学的なものの考え方ができる。</p> <p>② ある事柄や現象を式、図、表、グラフ等を用いて数学的に表現することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン ①講義の概要の説明 ②SPIの問題を行い、基本的な数学の理解度を確認してもらいます。</p> <p>第2回 仕事 仕事の定義をまなび例題の解説を行い、演習問題を解いてもらいます。</p> <p>第3回 割合 割合の定義をまなび例題の解説を行い、演習問題を解いてもらいます。</p> <p>第4回 方程式 方程式の定義をまなび例題の解説を行い、演習問題を解いてもらいます。</p> <p>第5回 連立方程式 連立方程式(鶴亀算)の定義をまなび例題の解説を行い、演習問題を解いてもらいます。</p> <p>第6回 損益算 ①定価、売り値および利益についてまなび例題の解説を行い、演習問題を解いてもらいます。</p> <p>第7回 平均の速さと速度 速さおよび速度の定義を学び例題の解説を行い、演習問題を解いてもらいます。</p> <p>第8回 場合の数 場合の数とは何かを学び、公式を駆使できる。例題の解説を行い、演習問題を解いてもらいます。</p> <p>第9回 順列と組み合わせ 順列および組み合わせの意味について学び例題の解説を行い、演習問題を解いてもらいます。</p> <p>第10回 確率(基礎問題) 確率の定義(意味)について学び例題の解説を行う。</p> <p>第11回 確率(応用問題) 確率に関する問題演習を行う。</p> <p>第12回 精算 精算の意味について学び例題の解説を行い、演習問題を解いてもらいます。</p> <p>第13回 分割払い(基礎) 割合の意味について学び例題の解説を行う。</p> <p>第14回 分割払い(応用) 分割払いに関する問題演習を行う。</p> <p>第15回 期末試験 これまで学んだ理解度を確認(評価)するために期末テストを行う。</p> <p>第16回 まとめ ①期末試験のフィードバックを行う。 ②学生が苦手としている分野の振り返りを行う。</p>
授業の概要	<p>① 数学の基本的な知識、概念を学ぶ事を通して論理的思考力を養成する。数学の基礎・基本を十分に理解する。具体的には講義形式だけではなく、演習も行い、教養としての数学を学ぶ。</p> <p>② 毎回の講義内容を予習し復習に勤める。</p> <p>③ 講義内容の理解度を確保するために、定期的に小テストを行う。</p>
予習	次回の講義内容に関する例題の問題を行う。
復習	毎回の講義内容(演習問題)の復習を行う。講義内に指示された問題演習を行う。
テキスト	最新最強のSPI
参考書	適宜に提供
評価方法・評価基準	<p>総合的な評価で、次の項目が大切となります。</p> <p>① 筆記試験 80%、 ② レポート・豆テスト等 10% ③ 授業への参加意欲 10%</p> <p>【D P 1～3との関連】</p> <p>.. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。</p> <p>.. 2 専門領域の学びを支える「コア科目」(キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー)をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。</p> <p>○ 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。</p>

履修上の注意	毎回の講義を大切に予習・復習を必ず行う事。
オフィスアワー	金曜日14:40～16:10（内間研究室）
課題に対する フィードバック方法	①定期的にショートテストを行い理解度を確認し、その次週に返却し解答（解説）する。 ②講義時間内に学生各自に問題を解いてもらい、講義時間内で解答（解説）する。

講義科目名称：文系学生のための基礎数学演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Basic Math. Exercise for Liberal Arts Students Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(1-1)	選択必修科目
担当教員			
内間 清晴			

授業のテーマ及び到達目標	<p>① 数学の基礎・基本を十分に理解し、基本的な数式の計算ができ、数学的なものの考え方ができる。</p> <p>② ある事柄や現象を式、図、表、グラフ等を用いて数学的に表現することができる</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン ①授業の概要の説明 ②SPIの試験を行い、学生各自の数学の基本的理解度を確認する。</p> <p>第2回 推論（順序） ①推論の意味について学ぶ ②考えられる順序や順位の一覧を書き出し、それに基づいて答えを導く。</p> <p>第3回 推論（対応関係） ①与えられた条件に基づいて正誤を判断する。</p> <p>第4回 推論（内訳） ①与えられた条件から「考えられる組み合わせの一覧」を書き出し、正誤を判断する。</p> <p>第5回 集合（基礎） ①集合の意味について学び、例題の解説を行う。 ②基本問題の演習を行う。</p> <p>第6回 集合（応用） ①ベン図を描いて問題を解く。</p> <p>第7回 方程式と不等式 ①方程式と不等式の意味について学び、例題の解説を行い問題演習を行う。</p> <p>第8回 グラフの領域（基礎） ①グラフと領域について基本的な解説を行い、例題の解説を行う。</p> <p>第9回 グラフの領域（応用） ①演習問題を行う。</p> <p>第10回 関数とグラフ（基礎） ①関数の定義について学び、例題の解説を行う。 ②与えられた式のグラフを正確に描く ③不等式の識別と範囲の特定ができる。</p> <p>第11回 関数とグラフ（応用） 関数とグラフに関する演習問題を行う。</p> <p>第12回 図形の読み取り ①図表を読み、必要な情報をえることができるよう例題の解説を行い、問題演習を行う。</p> <p>第13回 ブラックボックス ①ブラックボックスの意味を学び、変換規則を把握する。</p> <p>第14回 物の流れと比率 ①標記の仕方を学び、文字式を操れるよう例題の解説を行い、問題演習を行う。</p> <p>第15回 期末試験 ①これまでの学習の理解度を確認（評価）するために期末試験を行う。</p> <p>第16回 まとめ ①期末試験のフィードバックを行う。 ②学生が苦手としている分野の振り返りを行う。</p>
授業の概要	<p>① 数学の基本的な知識、概念を学ぶ事を通して論理的思考力を養成する。具体的には講義形式だけではなく、演習も行い、教養としての数学を学ぶ。</p> <p>② 毎回の講義内容を予習し復習に勤める。</p> <p>③講義内容の理解度を確認するために、定期的に小テストを行う。</p>
予習	<p>次回の講義内容に関する例題の問題を行う。</p>
復習	<p>毎回の講義内容（演習問題）の復習を行う。講義内に指示された問題演習を行う。</p>
テキスト	<p>最新最強のSPI</p>
参考書	<p>適宜に提供</p>
評価方法・評価基準	<p>総合的な評価で、次の項目が大切となります。</p> <p>① 筆記試験 80%、 ② レポート・豆テスト等 10% ③序業への参加意欲 10%</p> <p>【DP 1～3との関連】</p> <p>.. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。</p> <p>.. 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）を</p>

	はじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 ○ 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。
履修上の注意	毎回の講義を大切に予習・復習を必ず行う事。
オフィスアワー	毎週金曜日14:40～16:00 (内間研究室)
課題に対する フィードバック方法	①定期的にショートテストを行い理解度を確認し、その次週に返却し解答(解説)する。 ②講義時間内に学生各自に問題を解いてもらい、講義時間内で解答(解説)する。

講義科目名称：沖縄の言語

授業コード：

英文科目名称：Okinawan Language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
仲原 穰			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：沖縄語の基礎的な内容を理解し、説明できる。</p> <p>関心意欲：沖縄の家庭・地域・社会などで話されている言葉に興味を持つことができる。</p> <p>思考判断：伝統的な言語を使用するお年寄りの話しを6割程度理解することができる。</p> <p>態度：方言だから簡単だろうという考えではなく、第2外国語を習得するつもりで真摯にとりくむことができる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要、琉球語とは 講義概要や評価の方法、授業の進め方などについてオリエンテーションを行う。その後、「琉球語」とは何か、その範囲と名称、「琉球語」の系統や日本古語とのつながりについて講じる。時間があれば「自己紹介」を覚えてもらう。《プリントのみ》</p> <p>第2回 琉球諸方言の多様性 日本語と琉球語の関係について第1回とは別の例をあげて解説する。その後、「琉球語」に下位区分があること、下位区分が2つのグループに分かれることなどを講じる。そして、各地点の単語や文などを声に出して発音し、その「言語差」を体感してもらう。《プリントのみ》</p> <p>第3回 音のしくみ(母音①)第1課 第3回以降は、「沖縄語(うちなーぐち)」の特徴を中心にとりあげる。まず最初に母音のしくみ①について講じる。母音のしくみ①は非常に簡単なルールのようにみえるが、第15回の講義まで毎時間出てくるルールなので、確実に覚えてほしい。《プリント、教科書【第1課】》</p> <p>第4回 音のしくみ(母音②/子音①) 母音のしくみ②として、母音連続の際に起きる変化を覚え、さらに「き」や「ぎ」の変化(子音のしくみ①)についても講じる予定である。時間にゆとりがあれば、沖縄のあいさつ文化、身の回りの単語など、うちなーぐちの単語や文を少しずつ覚えてもらう。《プリント、教科書【第1課】》</p> <p>第5回 文のしくみ(助詞①/指示語)、音のしくみ(母音③) 第5回から「助詞」(単語と単語との関係を示す)も取り上げる。よく使用する「～が」に相当する助詞の使い方について講じる。また、母音のしくみ③として、1音節の単語の特徴も学ぶ。《プリント、教科書【第1課】【第2課】》</p> <p>第6回 文のしくみ(サ形容詞①) 文のなかには、語尾が変化する単語も使われている。変化する単語のなかで「～サン」という語尾を持つ「サ形容詞」の基本的な語尾の変化と意味について理解し、覚えてもらう。《プリント、教科書【第2課】》</p> <p>第7回 文のしくみ(動詞①)、音のしくみ(子音②) 沖縄語を聞き取れるようになるために必要なのは、変化する単語、そのなかでも「動詞」の語尾変化を覚えることである。まず、動詞の語尾変化の基本である否定形をもとにした変化を学ぶ。《プリント、教科書【第2課】》</p> <p>第8回 中間試験、音と文のしくみ(ウチナーグチ独特の音、子音の変化③、助詞②) この講義の基礎は、教科書の【第1～2課】であるため、その部分を中心にした中間試験を実施する(15分程度)。講義の折り返し地点である第8回で「前半の見直し」をしてもらうのが目的である。その後、子音のしくみ③として、語中の「り」の変化、やわらかな発音について講じる。時間に余裕があれば、助詞②として「は」の特徴について学ぶ。《プリント、教科書【第3課】》</p> <p>第9回 文のしくみ(動詞③、助詞③) 助詞③として「～を」にあたる助詞について学ぶ。その後、動詞③として、文を断定しつつ、言い切るとききの形を復習し、さらに後ろに名詞が続くときの専用の語尾についても講じる。また、強調の意味になる「係り結び」の作り方についても学んでもらう。《プリント、教科書【第3課】》</p> <p>第10回 文のしくみ(助詞④、動詞④) 助詞④として「～に」にあたる助詞と使用する際の注意点について講じる。この他、「～しよう」(意思・誘い)や「～しないか」(勧誘)の作り方についても学ぶ。《プリント、教科書【第4課】》</p> <p>第11回 文のしくみ(疑問文、助詞⑤)、音のしくみ(子音の変化④) 沖縄語の2種類の疑問文の作り方とその特徴について講じる。また、「～グー」の特徴と使い方についても学ぶ。さらに沖縄語のなかでも特徴的な発音である喉を緊張させて発音する音の特徴と「聞き分ける力」を身に付け、音の違いを理解する。《プリント、教科書【第5課】》</p> <p>第12回 文のしくみ(丁寧な言い方①(動詞⑤、形容詞②)、動詞⑥) 沖縄語にも敬語があり、その一つとして最初に「ヤン」を使う名詞文と「～サン」の語尾になる形容詞文の丁寧体について講じる。つづいて複雑な動作を表現するために活用語を後ろにくっつける「連用形」と助詞をくっつける尾略形について学んでもらう。《プリント、教科書【第5課】》</p> <p>第13回 文のしくみ(依頼表現、動詞⑦) 「～して」をもとにして、「～してください」という依頼表現や「～している」(継続形)、「～した」(過去形)の作り方について講じる。また、「～しなかった」「～したの?」の作り方についても学ぶ。《プリント、教科書【第5課】》</p> <p>第14回 文のしくみ(サ形容詞の変化③とナ形容詞、助詞⑥) サ形容詞の過去形の作り方と文に合わせた語尾変化について、ナ形容詞の活用の特徴について講じる。また、道具・材料・手段・方法などの「で」にあたる助詞についても学ぶ。《プリン</p>

	<p>ト、教科書【第6課】》 第15回 文のしくみ（助詞⑦、丁寧な言い方②〔動詞⑧〕）、まとめ これまでに学んだ文のしくみに出てきた「ナ」と新たに学ぶ「ナー」の違いを学ぶ。さらに動詞の丁寧表現について講じる。最後に時間があれば、まとめを行う。《プリント、教科書【第6課】【第7課】》</p> <p>第16回 期末試験 プリント第1回～第15回と教科書第1課～第7課（前半）で学んだ音のしくみと文のしくみ、さらに琉球語の基礎知識などから問題を作成し、出題する。（テストではプリント、教科書の持ち込み禁止）</p>
授業の概要	<p>この科目は沖縄で使われている伝統的なことばの基本的な知識を身につけ、老年層のことばを聞き取ること、簡単な会話をする力を身につけることを目的とした授業です。旅行用の会話集のような、決められた文を覚えるだけという方法では、老年層の方々の会話は成り立ちません。相手のことばを聞いて理解し、その内容に応じて自分が伝えたいことを相手にうまく伝える会話のキャッチボールが続かなければ、本当の意味でのコミュニケーションはとれないからです。授業のなかで音の特徴や文のしくみなどの基礎的な知識を学ぶことで、お年寄りのことばが自然に耳に入ってくるようになり、「会話の鎖」がつながるのです。授業では、会話を基にしつつ、基本を押さえた教科書を使って学びます。また、沖縄のことわざやわらべうたなども取り入れて授業します。なお、授業は「沖縄語」の一つである「首里方言」を中心に進めます。</p>
予習	<p>前の週に配布されたプリントを読み返してください。また、シラバスの授業計画で次の講義内容を確認し、教科書の該当箇所を目を通しておきましょう。</p>
復習	<p>講義で配られたプリントを講義後、なるべく2日以内に読み返し、宿題の練習問題を解いてください。また、教科書やプリントを読んでもよく理解できない箇所があれば、オフィスアワーに質問できるように、質問内容をまとめておいてください。</p>
テキスト	<p>西岡 敏・仲原 穰[著]、中島由美・伊狩典子[協力] 『CD付改訂版 沖縄語の入門 一たのしいウチナーグチー』（白水社）</p>
参考書	<p>外間守善[著]『沖縄の言葉と歴史』（中央公論社） 内間直仁・野原三義[編著]『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』（研究社） 国立国語研究所[編]『沖縄語辞典』（財務省印刷局）</p>
評価方法・評価基準	<p>中間試験：25% 期末試験：50% 授業態度（リアクション・ペーパーの提出）：25%</p> <p>【DP 1～3との関連】 .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 ○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 .. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。</p>
履修上の注意	<p>配布するプリントや資料を綴り、毎時間持参してください。前回のプリントの問題の答え合わせをしたり、時間がなくてとばした箇所を解いたりすることがあります。</p>
オフィスアワー	<p>授業終了後に教室で質問を受け付けます。</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>毎回の講義終了時に書いてもらう「リアクション・ペーパー」のなかで、クラス全体へフィードバックした方がよい内容があれば、講義開始時に前回の復習も兼ねて紹介します。 中間試験については「得点」を受講生に口頭で伝えます（ただし、希望者のみ）。期末試験は得点も内容もフィードバックしません。</p>

講義科目名称：沖縄の歴史と現在

授業コード：

英文科目名称：Okinawa modern history

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
新城 俊昭			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 明治政府による琉球併合から現代にいたる沖縄の歴史を理解する。</p> <p>【到達目標】 現在の沖縄を取り巻く諸問題に向き合うための基礎学力を習得する。</p>
授業計画	<p>第1回 授業を始めるにあたって。明治政府による琉球併合 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.207～219—琉球王国はどのようにして解体されたのか</p> <p>第2回 旧慣温存策と沖縄県政 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.222～233—沖縄民衆は世替わりをどのように受け止めたのか</p> <p>第3回 謝花昇の民権運動と頭懸（人头税）廃止運動 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.234～256—沖縄県民は諸権利をどのようにして獲得したのか</p> <p>第4回 ソテツ地獄と海外移民・本土への出稼ぎ 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.257～273—ソテツ地獄とはどのような社会状況なのか</p> <p>第5回 軍国主義の台頭と沖縄の状況 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.274～281—15年に及ぶ戦争はどのようにして始まったのか</p> <p>第6回 戦時体制と県民の暮らし 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.283～289—標準語励行運動がもたらしたものは何か</p> <p>第7回 アジア太平洋戦争と沖縄 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.290～299—米国との戦争は沖縄にどのような影響を与えたのか</p> <p>第8回 沖縄戦①—沖縄戦はなぜ起こったか 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.299～312—沖縄戦の特徴と問題点から見えるものは何か</p> <p>第9回 沖縄戦②—沖縄戦の実相 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.313～324—沖縄戦から何を学び、何を継承すべきなのか</p> <p>第10回 米軍支配下の沖縄 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.326～337—戦後の焼け跡から沖縄住民はどのように立ち上がったのか</p> <p>第11回 米軍による土地の強制収用と沖縄住民の抵抗 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.338～349—島ぐるみ闘争はなぜ起こったのか</p> <p>第12回 「祖国復帰運動」と沖縄返還の実態 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.350～370—沖縄住民はなぜ日本復帰を望んだのか</p> <p>第13回 新生沖縄県のあつみ 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.371～385—日本復帰で何が変わり、何が問題となったのか</p> <p>第14回 復帰後の沖縄県政 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.386～401—復帰による本土並みの政策は実現したのか</p> <p>第15回 現代沖縄の課題—基地問題を考える 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.402～415—なぜ沖縄に基地が集中しているのか</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	<p>1 現代沖縄の諸問題の根源を、明治政府による琉球併合から現在までの沖縄の歴史を学ぶことで考察する。</p> <p>2 日本史や世界史で学んだ知識に琉球・沖縄史の視点を組み込むことで、歴史の本質を見極める目を養う。</p> <p>3 沖縄という地域で独自の歴史を形成した先人の足跡を学ぶことで、沖縄人(ウチナンチュ)としてのアイデンティティの確立を図る。</p>
予習	事前に配布されたプリントの内容をテキストで調べ、授業に臨むこと
復習	授業での問題点・課題をテキスト等で調べてまとめること
テキスト	新城俊昭『教養講座 琉球・沖縄史』 編集工房東洋企画発行。その他、必要に応じて資料を配布。
参考書	新城俊昭『沖縄から見える歴史風景』 編集工房東洋企画発行。新城俊昭『琉球・沖縄 歴史人物伝』 沖縄時事出版発行。新城俊昭『戦後100年へのメッセージ 2045年のあなたへ』 時事出版発行。その他
評価方法・評価基準	<p>評価は毎時間の授業に対する取り組み、課題（レポート形式）、確認試験で行う。</p> <p>配分は、毎時間の授業評価(小テスト形式)30%、課題(フィールドワークのレポート)30%、確認試験(予め与えたプリントから出題)40%。また、授業に取り組む姿勢や意欲も評価の対象とし、場合によっては加減点することもある。</p> <p>【DP 1～3との関連】 .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と</p>

	<p>教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。</p> <p>○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。</p> <p>.. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。</p>
履修上の注意	<p>毎時間、本時の学習内容をまとめたワークシートと関連資料を配布して授業を進めるので、ワークシートに空欄の無いようしっかりとまとめ、ファイルに整理すること。また、ワークシートに記載されていない事項は余白を利用してメモをするなど、各自で工夫すること。</p>
オフィスアワー	<p>授業終了後 メールアドレスは、初回の講義にてお知らせします。</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題は評価後に授業内で返却します。</p>

講義科目名称：基礎英語コミュニケーション

授業コード：

英文科目名称：Basic English Communication

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位	選択必修科目
担当教員			
Michael Hertz			

授業のテーマ及び到達目標	今日の保育園や幼稚園でますます必要とされる英語でのコミュニケーションの習得と、海外留学を希望する学生にとって役立つ知識の習得を目標とする。
授業計画	<p>第1回 保育園や幼稚園でよく使われる英語の語彙を学習する。</p> <p>第2回 定番のゲームを行い、英語を使用・理解する力を身につける。</p> <p>第3回 ゲームの構成を噛み砕いて説明し、ゲームから得られる教訓を理解する。</p> <p>第4回 童謡を学び、実際に合唱する。</p> <p>第5回 児童向けのダンスを学び、練習する。</p> <p>第6回 楽しみながら、言語的・非言語的なスキルを構築する。</p> <p>第7回 簡単なスキット(寸劇)に参加する。</p> <p>第8回 絵本の読み聞かせをし、絵本に隠された趣旨を読み取る。</p> <p>第9回 良い例から、授業の進め方・児童の扱い方を学ぶ。</p> <p>第10回 悪い例から、授業の進め方・児童の扱い方を考える。</p> <p>第11回 グループワークに取り組む。</p> <p>第12回 基本的な英語の発音を学び、練習する。</p> <p>第13回 図画工作(詳細は未定)</p> <p>第14回 海外渡航に備える。</p> <p>第15回 児童を褒めるテクニックについて学ぶ。</p>
授業の概要	簡単なスキット(寸劇)、童謡の合唱、ゲームや講義を通して、学生の能力を向上させ、自信をつける。楽しく活発なクラスになるよう計画されており、保育でのキャリアを構築する為の踏み台ともなりうる。
予習	次回のレッスンのために、自分で考えてレッスンの準備をする。
復習	授業で学んだことを応用して実践する。
テキスト	追加で連絡がない限り、必要に応じて講義担当者が準備・配布する。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	<p>講義参加度(態度、プレゼンテーション等)、個人およびグループワークを総合的に評価する。</p> <p>【D P 1～3との関連】</p> <p>.. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。</p> <p>○ 2 専門領域の学びを支える「コア科目」(キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー)をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。</p> <p>.. 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスへの参加が最も重要視されるので、欠席しないように。 ・グループや個人での発表は積極的に取り組むこと。 ・正当な理由以外での欠席は認められません。よってそれ以外の欠席は届けなくてもよい。(公欠のみ提出) ・出席状況については各自で確認すること。
オフィスアワー	(仮) 授業終了後に質問を受け付けます。

課題に対する
フィードバック方
法

.

講義科目名称： 実用英語コミュニケーション

授業コード：

英文科目名称： Practical English Communication

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位	選択必修科目
担当教員			
Michael Hertz			

授業のテーマ及び到達目標	今日ますます必要とされる英語コミュニケーションスキルの習得、それから、初級英語の習得・海外留学・様々な場面や保育を含む幅広い業界で使用される会話スキルの習得を志す学生に役立つ知識と見識の構築を目標とする。		
授業計画	第1回	言葉やボディランゲージでのコミュニケーションスキルの構築	
	第2回	会話に必要なボキャブラリーの学習	
	第3回	仕事で求められるボキャブラリーの学習	
	第4回	発音の土台を構築	
	第5回	様々な状況で使えるフレーズの練習	
	第6回	定番ゲームを使った英語理解	
	第7回	英語使用に対する自信の構築とそれに伴う達成感や成功体験	
	第8回	自分に打ち勝つこと、モチベーションを高めること。	
	第9回	成功に向けてプレッシャーや壁を突破：やりたいことVSやるべきこと	
	第10回	アルバイトの面接の質疑応答対策	
	第11回	英語での数字の読み方を練習	
	第12回	簡単なスキット(寸劇)への参加	
	第13回	簡単な歌やダンスの体験	
	第14回	道案内のしかた	
	第15回	海外旅行・留学に欠かせない単語	
授業の概要	学生は、英語の言語能力と理解力をつけ、自信を高める為に様々なアクティビティや講義に参加する。次学期以降の履修クラスに必要なスキルの習得に重点をおいた楽しく啓発的なクラスである。		
予習	次のレッスンのために、自分で考えてレッスンの準備をする。		
復習	授業で学んだことを応用して実践する。		
テキスト	追加で連絡がない限り、必要に応じて講義担当者が準備・配布する。		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	講義参加度（態度、プレゼンテーション等）、個人・グループ課題を総合的に評価する。 【D P 1～3との関連】 .. 1 本学院の建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身に付ける意欲をもつ。 .. 2 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学分野等の総合的な教養を習得する。 ○ 3 情報化社会に対応するために、広い教養力に基づく論理的・批判的思考力を習得する。		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスへの参加が最も重要視されるので、欠席しないように。 ・グループや個人での発表は積極的に取り組むこと。 ・正当な理由以外での欠席は認められません。よってそれ以外の欠席は届けなくてもよい。(公欠のみ提出) ・出席状況については各自で確認すること。 		
オフィスアワー	(仮) 授業終了後に質問を受け付けます。		

課題に対する
フィードバック方
法

.